

平成 30 年度
教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果に関する報告書



令和元年 8 月

庄原市教育委員会

はじめに

本市では、「美しく輝く里山共生都市～みんなが“好き”と実感できる“しょうばら”～」を将来像として掲げ、まちづくりを進めています。

教育委員会では、教育の理念を「ふるさとの学びを原動力として高い志を持ち続け活躍できる人材の育成」としています。子供も大人もふるさとの学びや体験を通して、「主体的に学び、グローバル社会をたくましく生き抜く人材」「庄原市の将来を担うとともに国際舞台においても活躍できる人材」「社会に貢献し新しい時代を築いていく人材」の育成を目指し、活気と潤いのある「学びと誇りが実感できるまちづくり」に取り組んでいます。

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、毎年、前年度に実施した業務や事業について教育委員会自らが点検・評価を行い、その結果を報告書にまとめ、市議会に提出し公表しているものです。

なお、この点検及び評価にあたって、庄原市教育事務評価検討委員設置要綱に基づき、教育に関し学識経験等を有する方々を当委員会委員として、多角的な視点・観点からの貴重なご意見やご助言をいただいています。

今後とも、課題や取り組みの方向性を明らかにし、信頼される教育行政の推進を図るとともに、市民の皆様への説明責任を果たし、教育行政の一層の充実に努めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

庄原市教育委員会

目 次

I	教育行政施策の点検・評価の概要	
1.	目的	1
2.	点検・評価の対象及び実施について	1
3.	点検・評価の判断基準	2
II	「平成 30 年度教育行政施策の方針」に基づく点検及び評価の結果	
1.	学校教育	4
(1)	確かな学力の定着・向上	4
(2)	豊かな人間性の育成	9
(3)	健康・体力の保持・増進	13
(4)	今日的課題への対応	16
(5)	教職員の資質向上	20
(6)	学校教育環境の充実	22
2.	生涯学習	31
(1)	生涯学習・社会教育の充実	31
(2)	芸術・文化の推進	37
(3)	生涯スポーツの振興	45
3.	家庭・地域の教育力	53
(1)	教育風土の醸成	53
(2)	家庭・地域と一緒に取り組む教育活動	55
III	教育委員会委員の活動状況	
1.	庄原市教育委員会委員	58
2.	教育委員会議の開催状況	58
3.	教育委員会議の議決案件及び主な報告・協議事項	59
4.	教育委員会議以外の活動状況	61
IV	教育事務評価検討委員の意見	
1.	庄原市教育事務評価検討委員	62
2.	点検及び評価の結果に関する意見	62

【参考】 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）

第 26 条（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

I 教育行政施策の点検・評価の概要

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、その結果を議会に報告し、市民に公表することが義務づけられています。

この点検・評価は、本市教育行政の推進に資するとともに、市民に対する責任を果たすことを目的としています。

2 点検・評価の対象及び実施について

平成30年度の点検・評価については、「庄原市長期総合計画」に掲げる教育・文化に関する基本計画に基づいて、教育委員会が策定した「平成30年度教育行政施策の方針」により、重点施策として取り組んだ施策及び事務事業について、点検・評価を実施しました。

学校教育の分野では、「ふるさとを愛する心を持ち、主体的に学び続ける児童生徒の育成」をテーマに、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した主体的な学びの教育活動の推進、児童生徒の自尊感情や規範意識の高揚、健康で活力ある態度を養う教育の充実、学校・家庭・地域が一緒になった児童生徒の育成に向けて、「確かな学力の定着・向上」「豊かな人間性の育成」「健康・体力の保持・増進」「今日的課題への対応」「教職員の資質向上」「学校教育環境の充実」を柱とした27項目77施策を対象としています。

生涯学習の分野では、「豊かな心を持ち主体的に学び続ける人づくり・地域づくり」をテーマに、市民一人一人が生涯にわたり主体的に学び、その成果を社会参加に反映できるように、また、人と人、人と地域、地域と地域が確かな絆で結ばれた地域社会の実現ができるように、「生涯学習社会教育の充実」「芸術・文化の推進」「スポーツの推進」を柱として取り組んだ8項目73施策を対象としています。

さらに、家庭・地域の教育力の分野では、「学校・家庭・地域の連携」をテーマに、子供の育ちを支える地域や学校、関係者が子供としっかり向き合い、子供の心に寄り添いながら、一緒になって子供を育てるように、「教育風土の醸成」「家庭・地域と一緒に取り組む教育活動」を柱として取り組んだ5項目12施策を対象としています。

点検及び評価の充実を図るため、学校教育関係者、社会教育関係者、有識者等による庄原市教育事務評価検討委員を設置し、点検及び評価の内容について調査及び検討を行っていただくとともに、同委員と教育委員会委員が一堂に会し、点検・評価結果に関する意見交換会を開催し、本市教育行政に対する意見や助言等をいただいています。

3 点検・評価の判断基準

点検・評価にあたっては、「平成30年度教育行政施策の方針」に掲げた重点施策の体系に従い、項目ごとに【取り組み・実績】【成果・効果】【課題・対応】について整理するとともに、併せて【成果・効果】の中で、各具体的施策や事業について「有効性」「必要性」「方向性」の各観点から個別点検を行い、次の基準に従ってそれぞれの評価指標を提示しています。

区分	指標	判断基準
有効性	非常に高い	施策や事業の目的・目標が十分に達成された
		前年度の実績を大幅に上回った
		同様の施策・事業を実施している県内各市町と比較すると、かなり上位に位置している
	高い	施策や事業の目的・目標が概ね達成された
		前年度の実績を上回った
		同様の施策・事業を実施している県内各市町と比較すると、やや上位に位置している
	普通	施策や事業の目的・目標に対して、ある程度の成果はあった
		前年度の実績とほぼ同じ程度である
		同様の施策・事業を実施している県内各市町と比較すると、平均的・中位に位置している
	低い	施策や事業の目的・目標に対して、期待した程の成果や効果が出なかった
		前年度の実績を下回った
		同様の施策・事業を実施している県内各市町と比較すると、やや下位に位置している
非常に低い	施策や事業の目的・目標に対して、ほとんど成果や効果が出なかった	
	前年度の実績を大幅に下回った	
	同様の施策・事業を実施している県内各市町と比較すると、かなり下位に位置している	

区分	指標	判断基準
必要性	非常に高い	市民のニーズが非常に増加している
		法律等に基づく施策・事業または市が主体的に行うべき施策・事業である
		市教委が関与すべき程度（範囲・度合い）について、見直しの余地がない
	高い	市民のニーズは増加傾向である
		市民に身近な施策・事業であり、市が行うべきである
		市教委が関与すべき程度（範囲・度合い）について、見直しの必要はない
	普通	市民のニーズはほぼ横ばいである
		どちらかといえば、市が行うのが適当な事業である
		市教委が関与すべき程度（範囲・度合い）について、当面見直しの必要はない
	低い	市民のニーズは減少傾向である
		どちらかといえば、国・県または民間が行うのが適当な事業である
		市教委が関与すべき程度（範囲・度合い）について、見直しの必要がある
非常に低い	市民のニーズはほとんどない	
	国・県または民間が主体的に行うべき事業である	
	市教委が関与すべき程度（範囲・度合い）について、抜本的な見直しが必要である	
方向性	拡大継続	事業効果が非常に高いため、さらに拡充して継続すべきである
	現状継続	事業効果が高いため、現状の規模を維持して継続すべきである
	改善継続	事業効果が認められるので、内容等を改善した上で継続すべきである
	縮小継続	事業効果が低いため、内容等の見直しまたは他事業との統合等を行う必要がある
	廃止・休止	事業が実施されていないか、事業効果がほとんどないため、事業の廃止あるいは休止すべきである
	完了・終了	当該年度をもって、計画または予定どおり事業が完了（終了）した

Ⅱ 「平成30年度教育行政施策の方針」に基づく点検及び評価の結果

1 学校教育

(1) 確かな学力の定着・向上

① 主体的に学び考える教育の推進

【取り組み・実績】

- 個に即した指導の充実と学習習慣の確立
 - ・ 学習内容の確実な定着と自律的な家庭学習の充実
指導主事が各学校の校内研修及び市教育研究会の研修会に参加し、学習内容を定着させ児童生徒一人一人に力をつける授業づくりや、授業と家庭学習との関連を充実させるための指導講話を実施
県教委事業の学力フォローアップ校事業対象校である東城小学校における校内研修に参加し、学力の定着に向けた授業づくりや個別指導体制等について指導助言
 - ・ 自律的な学習を促進する複式・少人数指導の充実
「複式・少人数指導研修会（6/25）」実施
口北小学校において、高学年の複式授業公開、研究協議及び講話により、複式・少人数指導の授業の在り方について研修（全小中学校対象）
- 対話的な学び・深い学びの展開
 - ・ 知識及び技能を活用した授業改善
指導主事が各学校の校内研修に参加し、児童生徒の「主体的な学び」の創造に向けた授業改善の取り組みについて指導助言
 - ・ 単元開発と課題発見・解決学習の推進
市主催研修において、単元開発や課題発見・解決学習を視点にした研修を実施
「第1回教頭研修会（6/29）」実施
「第1回庄原市『学びの変革』推進協議会兼第2回庄原市初任者研修会（7/3）」実施
「第2回庄原市『学びの変革』推進協議会 兼 庄原市研究主任研修会（8/9）」実施
「第3回庄原市『学びの変革』推進協議会（1/30）」実施
各校の主体的な学びに向けた単元開発や課題発見・解決学習の実施状況について、アンケート実施
- 科学的思考力の育成を図る理科教育の充実
 - ・ 仮説に基づく観察・実験の結果を分析し、考察する指導の充実
「児童生徒科学研究の進め方についての研修会（5/23）」実施
「児童生徒科学研究作品展審査会（9/11）」実施
「児童生徒科学研究作品展（9/15・16）」実施
複式学級のある学校へ理科指導に係る非常勤講師を配置（実験、観察等の指導の充実）

【成果・効果】

- ◎ 全国学力・学習状況調査では、小学校、中学校共に全教科で県平均正答率を上回った。国語A問題（基礎的・基本的内容）、算数A問題、理科において平均正答率が70%前後であり、基礎的・基本的な学習内容は、おおむね定着している。
- ◎ 複式授業の公開や研究協議から、複式学級のみならず、中学校や単式学級校の指導者に複式

授業の困難性や改善点、課題に対する取り組みを共有できた。

- ◎ 口北小学校の家庭学習をいかした授業づくり及び指導の工夫が、各校の主体的な学びに向けた取り組みの参考となる内容があった。
- ◎ 各校で研究主題を設定し、主体的な学びや深い学びに向けた授業改善に取り組んでいる。
- ◎ 課題発見・解決学習について、前年度県指定校を活用し、授業研究を通して各学校に意識付けを行うことができた。主体的な学びを促す単元開発にも関わるカリキュラム・マネジメントについて研修を充実させた。(庄原小学校、庄原中学校の英語指定校の研究は新学習指導要領の内容を深めていく先進的な取り組みとなっている。)
- ◎ 県科学賞準特選に3作品が入賞した。前年度特選受賞校の取組を参考にした研究もあり、科学研究作品の質の高まりが見られる。科学研究を通して科学的思考の育成を図っている。
- ◎ 理科指導非常勤講師の配置により、複式指導が解消され、実験、観察の指導が充実した。
- ◎ 非常勤講師配置校の全国学力・学習状況調査理科における平均通過率は市の平均通過率と同程度であり、全国平均、県平均とも上回っている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
学習内容の確実な定着と自律的な家庭学習の充実	高い	高い	現状継続
自律的な学習を促進する複式・少人数指導の充実	普通	高い	現状継続
知識及び技能を活用した授業改善	高い	非常に高い	現状継続
単元開発と課題発見・解決学習の推進	高い	非常に高い	現状継続
仮説に基づく観察・実験の結果を分析し、考察する指導の充実	普通	高い	現状継続

【課題・対応】

- 全国学力・学習状況調査の結果から、算数・数学の「活用する力」の定着に課題がある。
- 授業改善には継続的に取り組んでいるが、教科等の指導事項における指導のポイントが焦点化されていない授業が多い。教材研究の充実が課題である。
- 児童生徒の主体的な学びを促し、目指す資質・能力を育成するため、カリキュラムマネジメントを意識した授業改善を推進する必要がある。
- 家庭学習と授業とのつながりについての指導が十分でない。家庭学習を授業と関連させて学びを連続させることの必要性について、指導を充実させる必要がある。
- 指導者によって複式・少人数指導の経験が異なり、指導状況に差がある。
- 児童が主体的に学ぶ力を育て、学習内容の確実な定着を図るための深い学びの複式授業改善・研究を更に進める必要がある。
- 授業の改善状況は、各学校、学級により違いがある。それぞれの課題に応じた指導・助言を継続して行う必要がある。
- 課題発見・解決学習の実施は全ての学校が概ね達成できているが、年間指導計画への位置付けや授業改善が十分でない学校がある。今後も、学校訪問や学校に対するアンケート調査等で状況を把握し、適宜指導助言を行う。
- 科学研究に取り組む児童生徒の割合には学校間で格差がある。また、児童生徒が取り組んでいる学校の中でも、指導状況には差が見られる。

② ことばの教育の推進

【取り組み・実績】

- 「ことばの力」の育成とコミュニケーション能力の向上
 - ・ 各教科等の授業における目的を明確にした言語活動の充実
各校において、書いて表現する活動、考えたことを話し合う活動などの言語活動を設定し、主体的、対話的で深い学びを目指した授業改善
教科の本質を踏まえ、付けたい力を明確にし、見通しを持たせた授業構成や言語活動の充実を図った授業改善、意味のあるペア・グループ活動を行うよう学校訪問において指導
振り返りにおいて、しっかり自分の気持ちや考えなど文章を書いて振り返ることを学校訪問において指導
 - ・ 日本文化の良さを実感できる「書く」活動の推進
国語科をはじめとし、古典に触れ合う機会の増加
名文を視写したり、自分で短歌や俳句を作成する機会の増加
 - ・ 身のまわりの生活や体験活動等を題材にした作文指導の充実
「ひろしま教育の日」に係るメッセージの全校応募
教育委員会事務局内に「ことばの輝きコンクール」選定委員会を設置し、I部門（報告文・記録文）、II部門（生活文・体験文）へ質の高い作品の応募
詩文集「さとやま」における第一部門（報告文・記録文）、第二部門（生活文・体験文）、第三部門（短歌・俳句・詩）への応募働きかけ
「青少年読書感想文コンクール」「鈴木三重吉賞」への積極的応募働きかけ

【成果・効果】

- ◎ パフォーマンス評価、単元のゴールを明確にした授業が各校において展開され、それらの解決に向けて、グループやペアによる協働的な学びが行われるなど、一定規模の集団の中でコミュニケーション能力の向上が図られている。
- ◎ 多くの学校において、短歌や俳句の作成に取り組んでいる。また、児童・生徒の作品を掲示している学校も多くある。
- ◎ 多くの児童生徒がコンクール等に応募し、積極的に自分の考えを表現している。
 （「ことばの輝き優秀作品コンクール」取り組み数 27年度 3066点→28年度 3454点→29年度 3182点 →30年度 3184点、詩文集「さとやま」29年度 取り組み数 4017点、応募数 217点 → 30年度 取り組み数 3813点、応募数 208点）
- ◎ 各校において、各種コンクールに積極的に応募し、多数の賞を受賞している。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
各教科等の授業における目的を明確にした言語活動の充実	普通	高い	改善継続
日本文化の良さを実感できる「書く」活動の推進	普通	普通	改善継続
身のまわりの生活や体験活動等を題材にした作文指導の充実	高い	高い	改善継続

【課題・対応】

- 教科の本質、教科において付けたい力を十分に身に付けさせる指導に至っていない。
- 教科の本質を明確にし、言語活動の充実を図った授業改善に、今後も継続して取り組む。
- 児童生徒の作品をお互い評価するという機会は少ない。お互いのよさを評価しあうことで、作品の質的向上を図る必要がある。
- 作文指導について研修する機会を設定し、指導力の向上を図る。

③ 読書活動の推進

【取り組み・実績】

- 自主的な読書活動の充実
 - ・ 学校司書と連携した学校図書館活用の推進
学校司書 10 名を配置し、学校図書館の環境整備、学校図書館を活用した授業づくりの推進
「庄原市学校司書研修会（7/24）」実施
外部講師を招聘し、読み聞かせやブックトークの演習を実施。
「庄原市学校図書館研修会（7/6）」計画をしたが、県内で先進的に実践している講師を招聘して実施する予定であったが、大雨対応のため中止
学校司書打ち合わせ会において、ブックトークの研修を実施
電子ファイルによる蔵書データの整理
 - ・ ビブリオバトル・ブックトーク等を通じた読書活動の普及・啓発
ビブリオバトル・ブックトーク等の継続実施
「ことばの輝きコンクール」において、Ⅲ部門（読書感想文）へ各学校から作品を提出
詩文集「さとやま」における第四部門（読書感想文）への応募働きかけ

【成果・効果】

- ◎ 学校司書を 10 名配置することにより、学校図書館の環境整備を行うことができた。
- ◎ 読み聞かせやブックトークなどの読書活動の推進が図られてきている。
- ◎ 学校図書館を活用した授業づくりについて、学校司書と連携して取り組む学校が増えた。
- ◎ 学校司書打ち合わせ会での各校の実践交流により、今年度初めて任用された学校司書も見通しを持って業務を行うことができています。
- ◎ 平成 28 年度庄原市教育フォーラムでの中学生によるビブリオバトルを契機に独自にビブリオバトルを実施している学校がある。（小学校 4 校、中学校 5 校）

具 体 的 施 策	有効性	必要性	方向性
学校司書と連携した学校図書館活用の推進	非常に高い	非常に高い	拡大継続
ビブリオバトル・ブックトーク等を通じた読書活動の普及・啓発	高い	高い	改善継続

【課題・対応】

- 図書担当の教諭により、学校間で読書活動の推進に差がある。
- 庄原市子供の読書活動推進計画に準じた取り組みを各校で行う必要がある。
- 図書担当教諭、学校司書のさらなるスキルを向上させるため、打ち合わせ会の内容、研修内容を精査する。
- 学校図書館図書標準を満たしていない学校がある。（未達成校 小学校 10 校 中学校 5 校）
また、調べ学習などの百科事典等が古いなどの課題も見られる。今後、書籍等の整備が急務である。
- ビブリオバトルやブックトーク等を各校の読書活動における計画に位置付け、継続した取り組みとなるよう再考する。

④ 外国語教育（活動）の推進

【取り組み・実績】

- 児童生徒の英語力向上に向けた指導の充実
 - ・ 小中連携による授業研究の推進
 - 「第 1 回外国語教育研修会（10/9）」を庄原中学校において実施
中学校第 2 学年の授業を参観し、中学校のゴールの姿を小中学校の教員で共有した。
 - 「第 2 回外国語教育研修会（12/4）」実施
 - ・ 外国語に対する学習意欲を高める取り組みの充実
庄原市英語検定料補助金制度について各中学校に周知
 - ・ 基礎の習得とコミュニケーション能力の向上
 - 「中学生による英語スピーチ大会（6/9）」実施
7 中学校から 14 名の中学生が参加。
 - 「イングリッシュ・キャンプ（8/3）」実施
24 名の外国語に興味をもった生徒が集まり、終日 ALT とともに活動した。

【成果・効果】

- ◎ 小中学校のそれぞれの学習内容の違いや共通点を、小中学校の教員が合同で協議し、確認し合うことで、「中学校までに指導すること」と「小学校から引き継ぐこと」が明確となり互いの校種における外国語教育の充実につながっている。
- ◎ 英語検定料補助金の申請者は増加傾向にあり、受検に対して興味関心を持った生徒が増えた。受検する級もレベルの高い級へと向上してきている。
(第 3 学年における英語検定 3 級以上の取得率：25.7%)
- ◎ 本市中学生が、学校で身に付けた知識や技能を生かし、英語で自己表現する機会となっている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
小中連携による授業研究の推進	高い	高い	改善継続
外国語に対する学習意欲を高める取り組みの充実	高い	高い	現状継続
基礎の習得とコミュニケーション能力の向上	高い	非常に高い	現状継続

【課題・対応】

- 今後、新学習指導要領の内容を踏まえた授業内容を充実させるには、教員の研修の場を確保する必要がある。特に、小学校において大きく変更することについては、全教職員が共通理解を図る必要がある。
- 市内中学校第 3 学年生徒の 50%以上が英語検定 3 級以上を取得できるよう、制度の周知を行い、活用率を上げる
- 生徒の更なる学習意欲の向上を目指す。現在実施の事業をゴールとせず、これらの事業を通して、将来的に外国語能力を身に付けた生徒が育成されるよう将来の展望をもった取り組みも今後工夫していく必要がある。

(2)豊かな人間性の育成

① 道徳教育の充実

【取り組み・実績】

- 「特別な教科 道徳」の充実
 - ・ 自己表現力と粘り強くやりぬく力を高める学習活動の推進
新学習指導要領の配慮事項である登場人物に自我関与させることや自己との関わりで考えることを着実に実践するよう指導
道徳科の学びや気づきを実生活に活かすことができるよう指導
 - ・ 「考え議論する道徳」の着実な実践
庄原市道徳教育推進委員会研修会を年間4回実施
「第1回研修会（5/29）」
「特別の教科 道徳」実施にむけてのポイントや授業改善、評価等のポイントについて研修（県立教育センターサテライト研修講座の活用）
「第2回研修会（9/18）」
板橋小学校において授業研究、校内研修の持ち方について研修
「第3回研修会（10/25）」
西城小学校の研究会と兼ねて、地域のひと・こと・ものを生かした取り組み及び今後の道徳教育の方向性について研修
「第4回研修会（1/22）」
「特別の教科 道徳」の趣旨をふまえた諸計画の作成、教科化に向けた評価の在り方について研修
庄原市教育研究会道徳部会において、「特別の教科 道徳」の改訂の経緯、今後、各学校で取り組むべき内容について指導
 - ・ 評価の在り方等に係る研修の計画的な実施
評価においては、庄原市道徳教育推進委員会研修会（第1回）にて、評価における基本的な考え方について研修を実施
道徳における校内研修の際には、評価の在り方について指導の実施
小学校の通知表における評価文例を収集し、状況把握
- 他者への思いやりや人間関係を築く力の育成
 - ・ 社会に貢献する責任感を育成する学習活動の推進
「道徳教育改善・充実」総合対策事業指定校においては、地域の人材を活用した教育実践の継続及び市内小中学校への還元を図る
各校において、体験活動と関連を図った道徳教育を推進
 - ・ 発達段階に応じた意見交流の場の設定等指導方法の工夫改善
児童生徒が自分の考えをしっかりと伝え、相手の考えを聞き、多面的・多角的な学びができるよう、中心発問を工夫するよう研修会や学校訪問の際に指導
児童生徒の実態をしっかりと把握するよう指導
- 郷土愛を育む道徳教育の充実
 - ・ 家庭・地域との連携を図り、郷土に誇りをもつ学習活動の充実
多くの学校で道徳参観日を設定し、家庭や地域を巻き込んだ道徳教育の実施
地域のゲストティーチャーを招いての授業を積極的に実施
教科書の使用に伴い、地域教材を見直し、ブラッシュアップを行っている学校の実践

【成果・効果】

- ◎ 多くの学校において、自己との関わりをこれまで以上に意識させた授業を行うことができてきた。
- ◎ 学習指導要領改訂を受けて、「特別の教科 道徳」について、国や県の動向に係る内容や議論する道徳の実現をめざして、自分の考えを表現できる学習活動を意識し、話し合い活動の充実を図った授業づくりについて研修を行うことができた。
- ◎ 第2回の研修会においては、実際の評価文例を基に研修を行うことができた。
- ◎ 平成30年度「基礎・基本」定着状況調査質問紙調査(小学5年生・中学2年生)において、小学生では約95%、中学生では約99%の児童生徒が「学校や地域のルールを守っている」と回答しており、多くの児童生徒の規範意識が育っている。
- ◎ 多くの学校において意見交流の場の設定ができています。
- ◎ 平成30年度「基礎・基本」定着状況調査質問紙調査(小学5年生・中学2年生)において、小学生では約94%、中学生では約77%の児童生徒が「自分の住んでいる地域が好き」と答えており、自分の地域に愛着をもつことができています。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
自己表現力と粘り強くやりぬく力を高める学習活動の推進	高い	高い	現状継続
「考え議論する道徳」の着実な実践	高い	高い	現状継続
評価の在り方等に係る研修の計画的な実施	高い	高い	改善継続
社会に貢献する責任感を育成する学習活動の推進	高い	高い	現状継続
発達段階に応じた意見交流の場の設定等指導方法の工夫改善	高い	高い	現状継続
家庭・地域との連携を図り、郷土に誇りをもつ学習活動の充実	高い	高い	改善継続

【課題・対応】

- 長期的なスパンで児童生徒に粘り強く取り組ませること、成長をしっかり見取り評価を行うことが必要である。
- 児童生徒が「考え、議論」できる道徳授業を行うために、一定の集団規模がない学校についてどのように取り組むか、引き続き授業づくりについて研修を深める必要がある。
- 「特別の教科 道徳」の実施に向けて、地域や保護者への分かりやすい説明を行う必要がある。
- 「特別の教科 道徳」に係る評価を含め、小学校においては全面実施の状況把握、中学校においては全面実施に向けて取り組みを行う必要がある。
- 今後も評価の実態をしっかり把握する必要がある。
- 評価文例を収集したものを基にし、庄原市道徳科評価文例集を作成し、各校へ還元を行う。
- 西城小学校の「考え議論する道徳」の授業づくりや評価の在り方などの優れた実践をしっかり普及させること、取り組みを継続させることが必要である。
- 体験活動と関連させた取組を今後も推進する必要がある。
- 何を考えさせ、何に気付かせるかにこだわり授業づくりを行っていく必要がある。道徳的価値を深める意見交流を行っていく必要がある。
- 今後も家庭や地域との連携を図った道徳教育の推進を行っていく必要がある。
- 道徳的価値を深めるために、ゲストティーチャーにどのような内容を話してもらうかについては精査が必要である。

② 生徒指導の充実

【取り組み・実績】

- 自己指導能力の育成
 - ・ 生徒指導規程に基づく中学校区の一貫した指導体制の推進
 - ・ スクールカウンセラー等の活用による教育相談体制の充実
- いじめ問題への取り組みに向けた組織体制の確立
 - ・ いじめの未然防止に向けた取り組みの推進
 - ・ 家庭や関係機関と連携した指導・支援の充実
 - 定例校長会議における生徒指導体制の確立に係る指導・助言
 - 生徒指導実践指定校（庄原中及び庄原小：月1回）学校訪問指導及び学校の要請を受けての訪問指導
 - 学校生活安全相談員による児童生徒の問題行動に係る対応（随時・定期）実施
 - 「庄原市内小・中学校生徒指導主事等研修会（9/12）」実施
 - 庄原市における生徒指導上の諸課題（暴力行為、いじめ、不登校）の現状と課題、いじめ問題に係る対応について、未然防止に係る積極的な生徒指導の推進について研修
 - 「庄原市学校・警察連絡協議会」を年2回（第1回6/27、第2回12/10）実施
 - 庄原市における少年非行の現状と課題、児童虐待の現状と保護者対応、いじめの現状及びいじめ問題への対応についての研修、生徒指導体制・教育相談体制の確立、関係機関との連携に係る研究協議を実施
 - 学校教育専門員、教育交流教室「つばさ」の指導員、訪問支援員による不登校及び不登校傾向の児童生徒に係る対応
 - スクールソーシャルワーカーによる児童生徒及び保護者への対応
 - スクールカウンセラーによる児童生徒及び保護者への相談

【成果・効果】

- ◎ 定例校長会議や学校訪問指導を通して、各校の生徒指導規程に基づいた指導等について助言することにより、組織的な生徒指導体制の確立を図った。
- ◎ 市の現状から、いじめ及び不登校の未然防止策が重要であることを各校に周知するとともに、各校の実態に応じて積極的な生徒指導を推進していくよう促した。
- ◎ 学校生活安全相談員、専門員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等による各小中学校不登校及び不登校傾向の児童生徒及び教職員への指導・支援により、個に応じた指導や教育相談体制が改善されている。
- ◎ 問題行動が生じた際の対応の在り方について、関係機関及び各学校（小中高校）で共有することができた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
生徒指導規程に基づく中学校区の一貫した指導体制の推進	高い	非常に高い	現状継続
スクールカウンセラー等の活用による教育相談体制の充実	非常に高い	高い	現状継続
いじめの未然防止に向けた取り組みの推進	非常に高い	非常に高い	現状継続
家庭や関係機関と連携した指導・支援の充実	高い	非常に高い	現状継続

【課題・対応】

- 暴力行為が発生した要因として、児童生徒が感情や行動のコントロールができていないことが挙げられる。引き続き、社会で許されないことは学校でも許されないといった毅然とし

た指導と特別支援教育の視点を踏まえた指導が必要である。

- いじめや不登校の未然防止策（魅力ある学校づくり）を推進する取り組みを具体的にどのように進めていくかについての研修が必要である。
- 不登校の主な要因として、怠学傾向や対人関係の問題、家庭の教育力、学力の問題が挙げられる。保護者及び関係機関との連携により、段階的・継続的な学校復帰に向けた支援が必要である。

③ 体験活動の充実

【取り組み・実績】

- 豊かな人間性や社会性の育成に向けた体験活動の充実
 - ・ 発達段階に応じた体験活動の推進と事前・事後指導の充実
 - 広島県教育委員会が推進する「山・海・島」体験活動において、小学校19校中17校（小規模校のうち2校は隔年おき実施）が、3泊4日の宿泊体験学習を実施
 - 広島県教育委員会主催の「山・海・島」体験活動実践発表会で、庄原小学校児童による実践発表を実施

【成果・効果】

- ◎ 県の補助金は打ち切られたが、国の補助金を受けることができた。
- ◎ 各校とも、ねらいを明確にした取り組みを行うとともに、事後指導においても日常生活と関連付けた取り組みを行っている。

具 体 的 施 策	有効性	必要性	方向性
発達段階に応じた体験活動の推進と事前・事後指導の充実	高い	高い	改善継続

【課題・対応】

- 学校単位で補助を出しているが、児童1人当たりの補助額について、学校間の格差が大きい。市の補助金要綱を、参加児童数に対する補助額に変更するなどの対応が必要である。
- 天候等による安全面への心配から、泊数を少なくすることを考える学校があった。猛暑等への対策を検討していく必要がある。

④ 芸術教育の充実

【取り組み・実績】

- 感性を高め、豊かな情操を養う芸術教育の充実
 - ・ 表現、創作、鑑賞する教育活動の推進
 - 「中学校合唱コンクール（11/13）」実施（700人）
 - 「邦楽鑑賞会の実施」
 - ・ 我が国や郷土の伝統的な文化に関する指導の充実
 - 「古典の日（11/1）」の取り組み（伝統文化について学ぶ機会）
 - 「中学生による英語スピーチ大会（6/9）」実施（地域の文化や伝統、よさを伝えるスピーチ）
 - 地域出身の方を招聘し、落語会を実施

【成果・効果】

- ◎ 中学校合唱コンクールのアンケートでは、参加生徒からは92%、市民からは100%の肯定的な回答が得られた。
- ◎ 「古典の日」や日本の文化に触れる機会を全小中学校で設けている。
- ◎ 本物の芸術家に触れる取り組みが数校で行われている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
表現、創作、鑑賞する教育活動の推進	非常に高い	高い	現状継続
我が国や郷土の伝統的な文化に関する指導の充実	高い	高い	現状継続

【課題・対応】

- 本市では児童生徒が伝統や文化に触れる機会が多いが、外部に発信する力が弱いいため、発信する力を身に付けるための指導の工夫が必要である。

(3)健康・体力の保持・増進

① 心身の健康保持増進

【取り組み・実績】

- 健康で活力のある生活習慣の確立
 - ・ 家庭と連携したアウトメディア及び携帯電話等に係る取り組みの充実
 アウトメディアの取り組みを全校で実施
 携帯電話等の利用に係るアンケート調査を実施
 携帯電話等の利用に係る啓発活動（定例校長会議、学校警察連絡協議会）実施
 ※「アウトメディア」とは、テレビやDVD、ゲーム、インターネット等の電子メディアに触れないで過ごすこと。
 - ・ 喫煙・飲酒・薬物乱用防止及び歯予防等の取り組みの充実
 「庄原市学校・警察連絡協議会」（第1回6/27、第2回12/10）実施
 庄原市における少年非行の現状と課題について警察からの講話
 庄原市歯科衛生連絡協議会の事業内容として、全小中学校に歯みがき指導を年1回実施（原則として小学校2・6学年）、中学校では地域・生徒の実態に応じた指導を養護教諭と学校歯科医が連携して実施

【成果・効果】

- ◎ 各中学校区の実態に応じて、「アウトメディアの日」を設定することにより、継続した取り組みができた。
- ◎ 少年非行の現状について知る機会となり、小中高が連携した取り組みの充実につながっている。
- ◎ 歯科衛生連絡協議会において、学校歯科医、歯科衛生士、行政担当者等と取り組みや課題について協議する場があり、実態に応じた取り組みが進められている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
家庭と連携したアウトメディア及び携帯電話等に係る取り組みの充実	高い	非常に高い	現状継続
喫煙・飲酒・薬物乱用防止及び歯予防等の取り組みの充実	普通	普通	現状継続

【課題・対応】

- 携帯電話・スマートフォン等の利用に係る継続した啓発が必要である。
- 薬物乱用防止教室については、学校が外部団体と連携して行われているが、市として内容等の把握が十分できていない。
- 歯科衛生指導の充実に向けて、歯科衛生士等の専門的な助言を参考にした取り組みを継続する必要がある。

② 安全教育の充実

【取り組み・実績】

- 危機管理意識の醸成
 - ・ 危険を予測し回避する指導の充実
危機管理、安全教育の充実に向けて、時期に合わせた市教委独自の通知を送付

【成果・効果】

- ◎ 安全教育に係る通知は、定例校長会議でも再度周知し、安全教育の推進を図っている。

具 体 的 施 策	有効性	必要性	方向性
危険を予測し回避する指導の充実	普通	高い	現状継続

【課題・対応】

- 県からの通知だけでは、中山間地域の実情に合わない内容もある。地域実態に即した通知を今後行う必要がある。

③ 食育の推進

【取り組み・実績】

- 望ましい食習慣の確立
 - ・ 食に関心をもち健全な食生活を実践する力の育成
「食育研修会（6/20）」実施
「本県及び本市の食育の現状と取組の推進について」と題して、指導主事が講話
「各教科等における食に関する指導の実際」と題し、栄養教諭による実践報告
「各校における食に関する指導の充実に向けて」「食の課題解決に向けた取組をめざして」と題し協議を実施

【成果・効果】

- ◎ 食育研修会で栄養教諭の取り組みを紹介することで、各校の取り組みの充実につなげている。
- ◎ 栄養教諭の校区内への訪問（指導）目標値を設定・提示し、校区内の学校との計画的な連携と実践の広がりを促した。

具 体 的 施 策	有効性	必要性	方向性
食に関心をもち健全な食生活を実践する力の育成	普通	普通	現状継続

【課題・対応】

- 栄養教諭の取り組みを参考にできるよう、日常的に情報交換できる環境をつくる必要がある。

④ 体力づくりの充実

【取り組み・実績】

- 体力・運動能力の向上を図る組織的取り組みの充実
 - ・ 体育科の授業改善及び体育的活動の充実
- 個に即した内容や集団の中で培う内容など継続的な体力づくりの充実
 - ・ 苦手種目の克服を視点とした取り組みの充実
 - ・ 運動に親しみながら体力を高める取り組みの奨励
 - サーキットトレーニングや縄とび運動の奨励
 - 「庄原市体力づくり研修会（6/6）」実施
 - 研究授業（小学校第3学年「跳び箱運動」）の実施、主体的、対話的で深い学びに取り組む授業づくりについての協議、大学教授を招聘して体育科・保健体育科における授業改善についての講話
 - 体力づくり年間指導計画の作成及び計画に基づく実施
 - 新体力テストの実施及び改善計画の作成・実施
 - 「第23回庄原市小学校陸上競技記録会（6/16）」実施
 - 「第53回庄原市少年少女水泳記録会（7/27）」実施

【成果・効果】

- ◎ 体力・運動能力向上のための指導の在り方について、研究授業を基に、実践的な取り組みを共有することができた。
- ◎ 県大会の会場校において、授業改善が推進された。
- ◎ 体力・運動能力テストの実施に向け、各学校で具体的な目標設定ができるよう指導・啓発した。
- ◎ 各学校の実態に応じて、改善計画を作成した。
- ◎ 各記録会の参加に向けた取組を継続することで、小学生の体力運動能力に向上が見られる。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
体育科の授業改善及び体育的活動の充実	高い	高い	改善継続
苦手種目の克服を視点とした取り組みの充実	高い	高い	現状継続
運動に親しみながら体力を高める取り組みの奨励	高い	高い	現状継続

【課題・対応】

- 体育科における授業改善の指導方法や具体的な事例を広め、市内に還元していく必要がある。
- 実技研修を行うことで、指導力の向上を図る取り組みが必要である。
- 体力・運動能力テストにおいて課題のある中学校男子について重点的な取り組みを行うことが必要である。
- 体力・運動能力テストにおいて課題のあった項目に係り、改善に向けた具体的な取り組みについて研修する必要がある。

(4) 今日的課題への対応

① グローバル化に対応した教育の充実

【取り組み・実績】

- コミュニケーション能力の向上と自国及び他国文化の理解促進
 - ・ 英語力向上に向けた指導改善の支援
庄原市小学校教育研究会（外国語部会）へ指導主事が参加し、指導方法等の改善や新学習指導要領改訂に向けて指導・助言
小学校校内研修に対する訪問指導
 - ・ 伝統・文化に触れる機会の充実
「古典の日（11/1）」の取り組み（伝統文化について学ぶ機会）
「中学生による英語スピーチ大会（6/10）」の実施
中国四川省綿陽市訪問団の受入れ（8/2・3）

【成果・効果】

- ◎ 小学校学習指導要領改訂の内容や指導のポイントについて、小学校の部会に参加し周知を行った。
- ◎ 「古典の日」や日本の文化に触れる機会を全小中学校で設けている。
- ◎ 綿陽市訪問団の市内3家庭でのホームステイや庄原小訪問を実施し、子供同士の交流が図られた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
英語力向上に向けた指導改善の支援	高い	非常に高い	現状継続
伝統・文化に触れる機会の充実	高い	高い	現状継続

【課題・対応】

- 児童生徒が身に付けた知識を活用する場の設定について充実させるよう指導を行う必要がある。
- 本市では児童生徒が伝統や文化に触れる機会は多いが、外部に発信する力が弱いとため、発信する力を身に付けるための指導の工夫が必要である。

② 情報化に対応した教育の充実

【取り組み・実績】

- 情報活用能力の向上と情報モラル教育の充実
 - ・ ICT機器を有効に活用する研究への支援
「ICT活用教育モデル事業（庄原中学校：2年間指定）」における、タブレット端末活用の研究
 - ・ 情報モラルや情報を取捨選択、活用する力を育成する指導の充実
生徒指導主事等研修会で、スマートフォンの使い方などについて指導・講話

【成果・効果】

- ◎ 庄原中学校においては、学校全体でICT機器の活用が進んでいる。
- ◎ 他校でも、電子黒板を活用した授業研究が進んできている。
- ◎ 道徳の時間、学級活動等で情報モラルに係る学習教育を行う学校が増加している。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
ICT機器を有効に活用する研究への支援	高い	高い	改善継続
情報モラルや情報を取捨選択、活用する力を育成する指導の充実	高い	非常に高い	改善継続

【課題・対応】

- タブレット端末を活用した授業研究を行ったが、全校配備に向けた準備を進めることが大きな課題である。
- 情報モラルは、今日的な大きな課題であるが、道德の価値項目と直接結び付いていないため、年間計画へ位置付けて確実に指導するよう、工夫する必要がある。

③ 社会的自立に向けた教育の推進

【取り組み・実績】

- 将来の生き方を主体的に考えるキャリア教育の充実
 - ・ 幼保小中高等学校の連携による系統的なキャリア教育の充実
幼保小連携の取り組み（庄原市保育所職員研修会での指導主事の講話）
小中連携の取り組み（異年齢交流、中学生による小学生へのリトルティーチャー等）
中学校による職場体験学習の実施
 - ・ コミュニケーション能力や協働性等を高める取り組みの推進
「イングリッシュ・キャンプ（8/3）」実施
各学校において「かかわり」を大切にした授業づくり

【成果・効果】

- ◎ 各中学校区において、研究会を合同開催するなど、地域の実態に応じて特色ある取り組みが行われている。
- ◎ 各地域の実態に応じて、地域の方を訪ねたり、異校種訪問を行ったりしている。
- ◎ 授業の中では、お互いの考えを英語でやり取りするなど、「かかわり」を大切に活動を取り入れている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
幼保小中高等学校の連携による系統的なキャリア教育の充実	高い	高い	改善継続
コミュニケーション能力や協働性等を高める取り組みの推進	高い	高い	現状継続

【課題・対応】

- スタートカリキュラムを作成し、保育所・幼稚園と小学校の連携を深める取り組みを進める必要がある。
- 限られた地域の限られた人間関係の中で、児童生徒に対して、様々な出会いの場を仕組むよう指導を行う必要がある。

④ 特別支援教育の充実

【取り組み・実績】

- 個に即した組織的な指導・支援の充実
 - ・ 発達障害等を有する子供への指導体制の充実

- 「特別支援教育支援員研修会(4/5)」実施
- 特別支援教育支援員の役割、具体的な支援について研修
- 「第1回庄原市特別支援教育研修会(6/26)」実施
- 支援を必要とする児童生徒への指導体制等の充実について研修を実施
- 「第2回庄原市特別支援教育研修会(12/7)」講師を招聘し実施
- 通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒への指導・支援の方法について研修を実施
- 就学前からの協働による教育相談の充実
 - ・ 社会参加に向けた早期からの一貫した支援体制の充実
 - 保育所等就学前機関への訪問
 - 4課連携(教育指導課・児童福祉課・社会福祉課・保健医療課)の充実
 - 巡回相談事業の実施

【成果・効果】

- ◎ 年度初めに支援員対象の研修会を行い、基礎的な内容を周知するとともに、支援の状況等について参加者同士が交流した。
- ◎ 研修会への管理職の参加により、組織的・計画的な支援体制の確立が進んでいる。
- ◎ 保育所訪問及び5歳児検診後の保護者への教育相談等、就学前の早期からの連携を充実させることにより、子供の実態把握が進み、保護者の就学後の理解促進に繋がるとともに、適切な支援体制づくりが図られている。

具 体 的 施 策	有効性	必要性	方向性
発達障害等を有する子供への指導体制の充実	高い	高い	現状継続
社会参加に向けた早期からの一貫した支援体制の充実	高い	高い	現状継続

【課題・対応】

- 特別支援学級や通常の学級において、支援を必要とする児童生徒が年々増加しており、教職員や支援員の専門性の向上とともに、幼保小中の連携や支援体制の確立が一層必要となっている。研修会の参加者、内容等を考慮し、充実させる必要がある。
- 保育所と各小学校が取り組み課題を共有し、早期対応が行えるよう、今後も研修会や学校訪問などを通して周知徹底を図る。

⑤ 幼保小中連携の推進

【取り組み・実績】

- 学びの連続性がある教育活動の充実
 - ・ 幼児児童生徒の交流及び教職員の研修の充実
 - 各小学校に幼保小連携担当教員を位置付け、次年度以降の保小連携・接続について計画を作成
 - 庄原市保育所職員研修会(12/12)において、特別な支援を必要とする子供に関わる幼保小連携の在り方についての講話

【成果・効果】

- ◎ 各小学校の幼保小連携の状況について把握するとともに、次年度以降の連携・接続につい

て具体的に計画を立てる。

- ◎ 保育所職員研修会において、支援の必要な子供に係る保小連携について講話を行い、小学校の特別支援教育の状況や保小連携・接続の重要性について、理解を促すことができた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
幼児児童生徒の交流及び教職員の研修の充実	普通	高い	改善継続

【課題・対応】

- 就学前から小学校生活に不安を抱える保護者も多く、早めの連携が必要である。幼保小連携推進協議会の設置等、連携体制の構築に向けた取組を進めるとともに、校区内の連携について積極的に働きかける必要がある。

⑥ 県立学校の連携の推進

【取り組み・実績】

- 市内県立学校の教育活動の支援
 - ・ 学力や体力の向上、小中学校との連携を目的とした取り組み等の支援
県立学校への訪問（学校行事、研究会等）
 - ・ 小規模県立高等学校に対する教育振興補助事業の実施
広島県立高等学校再編整備基本計画において、統廃合検討の対象とされた市内県立高校（庄原格致高等学校、西城紫水高等学校、東城高等学校）を支援する団体に教育振興補助金を交付し、各学校の活性化、魅力ある学校づくり及び学力向上の活動に対し支援を行った。
市補助金：850千円×3高等学校＝2,550千円

【成果・効果】

- ◎ 県立学校へ訪問することで、各学校の現状や特色ある取り組みについての理解が深まった。
- ◎ 各学校では小規模高校連携事業として芸術鑑賞やクリスマスコンサート等が実施され、学校の活性化を行っている。また、中学校や大学、地域と連携して生徒の学力向上などに取り組み、魅力ある学校づくりに繋がっており、入学者数の維持や卒業後の進路確保に一定の成果が得られている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
学力や体力の向上、小中学校との連携を目的とした取り組み等の支援	普通	普通	現状継続
小規模県立高等学校に対する教育振興補助事業の実施	高い	高い	現状継続

【課題・対応】

- 県立学校と各小中学校との連携について実態を把握するとともに、より積極的な連携が進むよう助言が必要である。
- 少子化や都市部高校進学者の増加の傾向があることから、今後も支援の継続が必要である。

(5) 教職員の資質向上

① 授業力の向上

【取り組み・実績】

○ 教職員の授業力を高める研修の充実

- ・ 「主体的な学び」を創造する授業研究の推進

市主催研修において、主体的な学びの創造を視点にした研修を実施

「第1回教頭研修会（6/29）」

「第1回庄原市『学びの変革』推進協議会 兼 第2回庄原市初任者研修会（7/3）」

「第2回庄原市『学びの変革』推進協議会 兼 庄原市研究主任研修会（8/9）」

「第3回庄原市『学びの変革』推進協議会（1/30）」

指導主事が各学校の校内研修及び市主催研修会において、主体的な学びを視点に指導講話を実施

- ・ 知識・技能の確実な定着を図る指導の徹底

指導主事が各学校の校内研修において、知識・技能の確実な定着を図る指導について指導・助言

- ・ 教科等で育む資質・能力の明確化

指導主事が各学校の校内研修において、教科における資質・能力の育成について指導・助言

【成果・効果】

◎ 「主体的な学び」に向けた日々の授業改善に、多くの学校が取り組んでいる。

◎ 全ての学校で、目指す児童生徒の具体的な姿、そのために目指す授業像について、教職員の共有化が図られている。

◎ 新学習指導要領に示されている教科における資質・能力について、研究授業をもとに具体的に指導・助言している。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
「主体的な学び」を創造する授業研究の推進	高い	高い	改善継続
知識・技能の確実な定着を図る指導の徹底	高い	高い	現状継続
教科等で育む資質・能力の明確化	高い	高い	現状継続

【課題・対応】

● 児童生徒の学力の定着は、継続した課題である。付きたい力（ねらい）を単元レベルで明確に設定すること、ねらい達成に向けつながりのある授業づくり、確実にやりきらせる指導を徹底すること等が引き続き必要である。

● 各校が設定する育成したい資質・能力と教科における資質・能力との関連について、整理が十分できていない学校が多い。今後、校内研修だけでなく、研修会の場も利用して、研修を深める必要がある。

② 教職員の人材育成

【取り組み・実績】

○ 学び続ける教職員の育成

- ・ 専門性を高め、人間性を磨く研修の充実

県立教育センター専門研修講座及びサテライト研修講座の受講、21世紀教育セミナーや特設講座などの時代の要請による各種研修の受講の促進

- ・ 年齢層や経験年数に応じた研修の実施
新規採用職員対象の学校訪問を行い、授業観察及び個別面談の中での指導・助言
2・3・4・5年目の若年層教職員の学校訪問を行い、授業観察及び個別面談の中での指導・助言
- ・ ふるさと庄原のことを積極的に学ぶ教職員の育成
各学校における総合的な学習の時間や道徳の時間における積極的な教材発掘及び教材づくり、単元づくりへの支援

【成果・効果】

- ◎ 専門研修講座の受講者数は、200名（前年度196名）で4名増加、また、サテライト研修講座の受講校数は、16校（前年度18校）で2校減少した。
- ◎ 学事係及び指導係の担当者が、新規採用職員・若年層職員対象者のチューターとなり、年間を通して職種に応じた指導・助言や、管理職との連携を行うことにより、対象者の人材育成を行っている。
- ◎ 若年層学校訪問を計画的に実施し、個に応じた授業改善の視点や業務遂行に係る指導助言を行うことができている。
- ◎ 各学校において、総合的な学習の時間の年間指導計画及び単元づくりの見直しが進んできている。
- ◎ 平成30年度「基礎・基本」定着状況調査質問紙調査(小学5年生・中学2年生)において、小学生では約94%、中学生では約77%の児童生徒が「自分の住んでいる地域が好き」と答えており、自分の地域に愛着をもつことができている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
専門性を高め、人間性を磨く研修の充実	高い	高い	現状継続
年齢層や経験年数に応じた研修の実施	高い	非常に高い	現状継続
ふるさと庄原のことを積極的に学ぶ教職員の育成	普通	高い	現状継続

【課題・対応】

- 研修で学んだことを、各学校で還元し、広めていくことが必要である。
- 各チューターが継続的に対象者及び管理職と連携し、きめ細かい支援を行う。年間を通して職務遂行の状況を把握し、継続的に指導・支援を行う。
- 中学校対象者の授業改善の充実を図るため、専門性の高い指導を行えるよう指導主事の調整を行う。
- 地域の方との交流や行事への積極的な参加を通して、より一層地域への理解を図るようにする。

③ 教職員の服務管理の徹底

【取り組み・実績】

- 教職員の不祥事防止に向けた自覚の醸成
 - ・ 行動計画の展開等、不祥事根絶のための取り組みの徹底
各学校への服務管理の改善及び、不祥事防止委員会等の定例化及び機能化の推進
不祥事防止研修の充実と相談体制の機能化

- 定例校長会議での指導及び文書による通知
- ・ 「心の健康づくり計画」の策定及びメンタル不調の未然防止
- 各学校における衛生委員会の定例化及び機能化の推進
- 定例校長会議での指導、文書による通知
- 毎月の報告及び校長ヒアリング等で各学校の状況を把握
- 初任者研修会でメンタルヘルス研修を実施

【成果・効果】

- ◎ 不祥事防止委員会の年間計画に沿って研修を進めるよう指導することにより、各学校で教職員の服務規律の徹底を図っている。
- ◎ 各学校で年間計画を基に定期的に衛生委員会を実施している。
- ◎ 衛生委員会では、入校・退校記録を活用して教職員の疲労の蓄積等の状況を把握し、個々の状況に即した指導を行っている。
- ◎ 衛生委員会での内容周知も図られてきている。

具 体 的 施 策	有効性	必要性	方向性
行動計画の展開等、不祥事根絶のための取り組みの徹底	高い	非常に高い	現状継続
「心の健康づくり計画」の策定及びメンタル不調の未然防止	普通	高い	改善継続

【課題・対応】

- 市内教職員による大きな不祥事案は生起していないが、不祥事の未然防止に向け継続した取組を行っていく。
- 市内教職員による交通事故及び交通違反数は、33 件（前年度 31 件）である。職員の服務規律の確保に向け、機会を捉え指導を行う。
- 勤務時間外の在校時間が月 80 時間を超えたことがある教職員の数は延べ人数で 184 人、実人数 62 人おり、前年度より延べ人数及び実人数ともに増加している。

(6) 学校教育環境の充実

① 学校運営組織の充実

【取り組み・実績】

- 学校組織マネジメントの充実
 - ・ 学校運営の改善を図る意見や学校評価の効果的な活用
 - 各学校における学校評議委員会、学校関係者評価委員会、学校保健委員会などでの外部からの評価、協議
 - 学校評価に係る指標等への指導助言
 - ・ P T Aとの連携体制の充実
 - 教育委員会と P T A連合会との協議

【成果・効果】

- ◎ 各学校では、学校教育目標の達成状況を学校評価や学校関係者評価で検証し、各委員会での意見や評価を学校運営に活用している。

- ◎ 庄原市教育フォーラムを庄原市PTA連合会との共催事業としたことにより、保護者の参加者が多かった。(650人)

具体的施策	有効性	必要性	方向性
学校運営の改善を図る意見や学校評価の効果的な活用	普通	高い	現状継続
PTAとの連携体制の充実	普通	高い	現状継続

【課題・対応】

- 各学校が設定している育成すべき資質・能力と学校教育目標との関連、それを踏まえた学校評価の評価項目について、整合が取れていない学校がある。
- 本年度作成した、5つの心がけ（さくら習慣）の推進をPTA連合会と連携し、取り組みを進める。

② 就学支援制度の充実

【取り組み・実績】

- 就学援助費支給制度による経済的支援の推進
 - 就学継続が困難で経済的支援を必要とする児童生徒の保護者に対して就学援助費を支給
該当の特別支援学級在籍児童生徒の保護者に対して就学援助費を支給
 - 私立幼稚園支援事業の実施
 - ・ 庄原幼稚園運営費補助金の交付
 - 学校法人庄原学園 庄原幼稚園に対し、私立幼稚園運営を支援するための補助金を四半期概算払（8・9・12・2月）で交付
 - 幼稚園運営費補助金:2,660千円
 - 学級割:400千円×3学級=1,200千円
 - 園児割:20千円×48人=960千円
 - 職員処遇改善補助金:500千円
 - ・ 私立幼稚園就園奨励費補助事業の実施
 - 本市在住の幼児が通い、保育料等の減免を実施している私立幼稚園に対し、国の幼稚園就園奨励費補助金交付要綱に準じ、補助金を概算払（9・2月）で交付することにより、幼稚園教育の振興を図る。

庄原幼稚園	41人	6,217,700円
祇園幼稚園（広島市）	2人	247,200円
三次清心幼稚園（三次市）	1人	62,200円
 - ・ 私立幼稚園第2子以降就園補助事業の実施
 - 本市在住の第2子以降の幼児が通い、保育料等の減免を実施している私立幼稚園に対し、保育料等から幼稚園就園奨励費補助金の額を減じた額を補助金として概算払で交付することにより、多子世帯に対する幼稚園教育の振興を図る。

庄原幼稚園	11人	1,199,600円
（第2子 5人 344,800円、第3子 6人 854,800円）		
- 奨学金貸付等事業の充実
 - ・ 奨学金貸付等事業の実施
 - 学習に意欲がありながら経済的な理由などにより高等学校などへの修学が困難な者に対し、庄原市奨学金による貸付を行った。

貸付実績（決算額）：30,118千円

貸付者数:66名（新規貸付:19名、継続貸付:47名）

返還見込額（調定額）：28,499千円（現年分:27,454千円、過年度繰越分:1,045千円）

返還対象者：252名（旧市町制度貸付分:6名、現庄原市制度貸付分246名）返還免除者を除く。

・ 奨学金制度内容の見直し

近年実績がない庄原市高校存続対策奨学金と基金残高が少なくなった庄原市奨学金（支給）の廃止・統合と合わせて、庄原市奨学金（貸付）の制度の見直しを行った。

○ 入学祝金の支給

本市在住の新小学校1年生251人、新中学校1年生291人を対象に支給した。

小学校：251人×20千円 5,020千円

中学校：291人×30千円 8,730千円

合計：542人 13,750千円

【成果・効果】

- ◎ 就学援助費を支給することにより、経済的理由による教育的格差の解消に努めた。
- ◎ 少子化の影響で園児の確保に苦慮している庄原幼稚園に対し補助金を交付することで、幼稚園運営を支援し、幼稚園教育の充実・振興を図った。
- ◎ 私立幼稚園就園奨励費補助金を交付し、保護者の経済的な負担軽減を図ることができた。
- ◎ 比較的低所得者層の園児が増加傾向にあり、保護者の経済的負担軽減に寄与することができた。
- ◎ 平成28年度から補助対象を第2子以降へ拡充したことにより、これまで国庫補助事業の対象外だった園児がより多く対象となったことで、保護者の経済的負担軽減の充実化につながった。
- ◎ 奨学金の貸付を新たに19名決定し、今年度は66名の貸付を実施することになった。進学や経済状況の変化に伴う家計負担の軽減に寄与し、奨学生の修学を支援した。
- ◎ 市内定住者の奨学金返還免除について、9名の申請に基づき返還免除を決定し、若者の定住を図った。（平成31年3月末日現在）
- ◎ 奨学金制度の見直しについて検討した結果、高校存続対策奨学金と庄原市奨学金（支給）の2つの制度を廃止し、毎年度一定程度の申請がある庄原市奨学金（貸付）を継続して実施することとした。
- ◎ 入学祝金を支給することで就学を祝福するとともに、家庭の経済的負担の軽減を図った。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
就学援助費支給制度による経済的支援の推進	高い	非常に高い	現状継続
庄原幼稚園運営費補助金の交付	普通	高い	現状継続
私立幼稚園就園奨励費補助事業の実施	高い	高い	現状継続
私立幼稚園第2子以降就園補助事業の実施	高い	高い	現状継続
奨学金貸付等事業の実施	普通	普通	現状継続
奨学金制度内容の見直し	普通	非常に高い	完了・終了
入学祝金の支給	普通	高い	拡大継続

【課題・対応】

- 就学援助費の支給に向け、適切な就学事務を行っていく。
- 近年庄原幼稚園の園児数は微増傾向であるが、経済的支援が必要な園児が増えているので、需要は増している。

- 幼稚園運営費補助金の主な目的は幼稚園職員の処遇改善であることから、今後も継続して支援していく。
- 令和元年10月から導入予定の幼児教育無償化に伴い、幼稚園への支援を継続することで、保護者の経済的な負担軽減を図る。
- 収納対策において、新規返還者への指導・啓発や口座振替による返還奨励などを行い、滞納防止に努める。また、滞納・月額が増加している者に対しては、本人または家族等への連絡や訪問等により、長期滞納防止に努める。
- 庄原市奨学金（貸付）のみを継続するにあたり、当該制度の重要性は高くなるため、引き続き制度の研究・検討をする必要がある。
- 入学祝金支給日までの事務期間が短いため、効率的な事務処理が求められる。
- 市内住民登録者で市外の小中学校に入学する場合も対象となり、これらの把握が困難なことから、関係機関との連携や情報収集が重要である。

③ 学校施設・設備の充実

【取り組み・実績】

○ 学校施設設備の適正管理

- ・ 学校施設設備の維持管理

【修繕・改修工事】 事業費 20,439千円

校内放送設備機器修繕（永末小）、教室ロッカー棚板修繕・校舎前駐車場入口側溝修繕（小奴可小）、屋外スピーカー交換修繕・ランチルーム棟換気扇修繕（比和小）、職員室エアコン修繕（総領小）、校舎給食搬入口付近屋根雨漏り修繕工事（永末小）、プール仮設トイレ撤去処分工事（高小）、校舎職員室等網戸設置工事（東小）、窓ガラス交換工事（山内小）、校舎・屋内運動場雨樋修繕工事（川北小）、多目的ホール網戸設置工事（西城小）、学校1階特別教室網戸設置工事（小奴可小）、学校保健室内相談カーテン設置工事（八幡小）、学校ランチルーム網戸設置工事（高野小）、ペレットボイラー固定ロストル交換修繕（庄原中）、グラウンド倉庫修繕（西城中）、図書室棚修繕（東城中）、受水槽漏電及び結露対策工事・玄関廻り排水工事（庄原中）、排水路改修工事・駐輪場及びバス待合所解体撤去工事（東城中）、渡り廊下アルミ衝立外撤去工事（総領中）

ブロック塀解体撤去及びフェンス設置工事 22,248千円

（高小・峰田小・板橋小・東小・口南小・高野中）

【備品購入】 6,698千円

屋外用音響装置（永末小）、加湿空気清浄機（峰田小）、ワイヤレスマイク・扇風機（山内小）、消火器（西城小・美古登小・口南小）、石油ファンヒーター（口北小・口南小）、寝具入れ・扇風機（口南小）、加湿器・学校校内放送器具一式・学校ガス漏れ警報機（高野小）、冷凍庫（庄原中）、理科室用椅子・消火器（東城中）、衣類乾燥機・加湿器（口和中）、消火器（高野中）、掃除機（総領中）

- ・ 全域的教育環境等整備事業の実施

【全域的教育環境等向上事業】

遊具環境整備(7校)	731千円
学校施設改修(14校)	6,313千円
LAN環境整備(2校)	824千円
プール環境改善(4校)	2,872千円
アルミパイプ椅子購入(500台)	2,144千円

児童生徒用机・イス購入(50台) 604千円
 ワンタッチテント購入(9校) 1,967千円

○ 学校施設整備の促進

- ・ 小学校普通教室冷房設備整備事業の実施
 小学校普通教室冷房設備整備工事
 (永末小・峰田小・美古登小・口南小・口北小・高野小、計6校)
 事業費 63,135千円(平成29年度3月補正予算、平成30年度へ全額繰越)
- ・ 学校施設の整備方針・老朽化対策の検討
 建築から40年を経過する学校施設(プールを含む)は、修繕・整備の方針(長寿命化・改築等)について検討している。平成33年度以降で事業着手できるよう新市建設計画の計画変更手続きを行った。

【成果・効果】

- ◎ 施設の老朽化等に伴う修繕・工事・備品整備を実施し、学校施設・設備の充実を図った。
- ◎ 施設の老朽化に伴う遊具環境整備・建築物改修、プールの環境改善等、またアルミパイプ椅子、児童生徒用机イス、ワンタッチテントを購入し、重要度の高い全域的課題の解決及び施設設備の質的向上を図った。
- ◎ 平成29年度以降3年間で計画計上していた小学校普通教室冷房設備整備事業の2年目の事業に係る交付金が採択され、平成29年度3月補正において前倒しで事業着手した。事業費全額を平成30年度へ繰越し、冷房設備整備を行った。
- ◎ 6月に発生した大阪府北部を震源とする地震により、小学校においてプールのブロック塀が倒壊し、その塀に挟まれた児童が亡くなるという事故が発生したことを受け、「ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金」を活用し、基準外のブロック塀を解体撤去しフェンスを設置する工事を行った。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
学校施設設備の維持管理	高い	高い	現状継続
全域的教育環境等整備事業の実施	高い	高い	現状継続
小学校普通教室冷房設備整備事業の実施	高い	高い	現状継続
学校施設の整備方針・老朽化対策の検討	普通	高い	拡大継続

【課題・対応】

- 施設の経年劣化に伴い、修繕が必要な箇所が多数存在している状況を踏まえ、緊急度や重要度等を測りながら計画的に修繕を行っていく必要がある。
- 財源である学校施設環境改善交付金や起債との調整を図りながら進めていく必要があり、同交付金が採択されなかった場合は、事業実施について検討する必要がある。
- 建築から40年を経過する学校施設(プールを含む)や学校トイレの洋式化は、修繕・整備の方針(長寿命化・改築等)において計画を策定する必要がある。

④ 遠距離通学児童生徒への支援

【取り組み・実績】

- スクールバスの運行等による通学手段の確保
 - 【小学校】
 - スクールバス運行業務委託 104,672 千円
 - 登下校タクシー借上料 1,091 千円
 - 【中学校】
 - スクールバス運行業務委託 15,121 千円
 - 登下校タクシー借上料 1,037 千円
- 通学費援助事業の実施による保護者負担の軽減
 - 小学校通学費補助事業 955 千円
 - 中学校通学費補助事業 19,813 千円
 - 中学校クラブ通学費補助事業 172 千円
- 生活交通対策と連携した輸送手段の検討
 - スクールバスなどの運行について、生活交通対策と連携し、学校適正配置を見据えた輸送手段の最適化や児童生徒の体力低下への影響を考慮した通学支援内容の見直しを検討
- 東城中学校寄宿舎の運営
 - 東城中寄宿舎(定員72名：入寮8名) 8,843 千円

【成果・効果】

- ◎ 遠距離通学の児童生徒に対し、スクールバスやタクシーの運行等を行うことにより、通学手段を確保した。
- ◎ 遠距離通学の児童生徒に対し、通学費補助金や定期券等相当額を交付することにより、保護者の負担軽減を図った。
- ◎ スクールバスなどの運行について、生活交通対策と連携し、輸送手段の最適化や児童生徒の体力低下への影響を考慮した通学支援内容の見直しを検討した。
- ◎ 東城中学校寄宿舎の運営により、通学困難な生徒の就学を支援した。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
スクールバスの運行等による通学手段の確保	高い	高い	改善継続
通学費援助事業の実施による保護者負担の軽減	高い	高い	現状継続
生活交通対策と連携した輸送手段の検討	高い	高い	拡大継続
東城中学校寄宿舎の運営	普通	普通	現状継続

【課題・対応】

- 学校適正配置による児童生徒の輸送手段を含め、生活交通対策と連携し、輸送の最適化や児童生徒の体力低下への影響を考慮した通学支援内容の見直しを検討する必要がある。
- 市内唯一の寄宿舎である東城中学校寄宿舎について、今後の利用見込や費用対効果を検証し、他の通学支援策への転換も含め検討する必要がある。

⑤ 学校給食の充実

【取り組み・実績】

○ 安全・安心で効率的な学校給食の提供

- ・ 学校給食施設設備の維持管理

【消耗品費・修繕・工事・備品】 21,056 千円

調理機器修繕（各調理場）、ガス回転釜修繕（庄原）、システム食器洗浄機修繕（庄原）、回転釜交換修繕（高野）、ランチルーム床シート貼り工事他（山内）、換気扇修繕工事（総領）、ブラストチラー購入（峰田）、パススルー冷凍庫購入（比和）、冷凍冷蔵庫購入（総領）、スチームコンベクションオーブン購入（総領）他

- ・ 学校給食調理業務等の民間委託

庄原・口和・高野地域学校給食調理業務委託（4 施設） 143,927 千円

西城地域学校給食調理業務委託（1 施設） 28,412 千円

東城地域学校給食調理業務委託（1 施設） 36,000 千円

比和地域学校給食調理業務委託（1 施設） 13,325 千円

総領地域学校給食調理配送業務委託（1 施設） 12,278 千円

- ・ 衛生管理や異物混入対策の徹底

安全で安心な給食を提供するため、衛生研修会の開催や、平成 27 年度に作成した「学校給食異物混入等対応マニュアル」に基づく対応の徹底等、学校給食の衛生管理や異物混入対策の適切な実施・指導に努めた。

- ・ 食物アレルギーへの対応

食物アレルギーの対応について、平成 26 年度に作成した「庄原市アレルギー疾患の児童生徒対応マニュアル」に基づき、配慮・管理の必要な児童生徒の把握を行うとともに、医師の診断・保護者面談等を通じて決定した除去食等の対応を、保護者・主治医・教職員・調理場関係者の共通理解のもと実施した。

平成 30 年度アレルギーによる除去食等対応者数：69 人（小学校 46 人・中学校 23 人）

○ 地元産食材使用の推進

地元農産物の使用状況調査結果を踏まえ、JA 庄原、農業振興課及び学校給食関係者等と、地元産食材の利用拡大及び安定供給を行う体制の整備・構築に努めた。また、地元米利用補助金を交付し、地元産米の利用促進に取り組んだ。

地元米利用補助金（西城、東城、口和、高野、比和、総領地域）：168 千円

○ 学校給食を活用した食育の推進

「食育の日」や「給食週間」等における郷土食や行事食の提供、栄養職員による栄養指導、広報しょうばら、フェイスブック、給食だよりや学校放送の活用による啓発、試食会の開催等を通じて推進を図った。

【成果・効果】

- ◎ 施設の改修及び備品等の購入により、安全で安心な給食の提供を行った。
- ◎ 学校給食の効率的運営を図るため、全地域で学校給食調理業務の民間委託を実施した。
- ◎ 「学校給食異物混入等対応マニュアル」に基づく対応の徹底等、学校給食の衛生管理や異物混入対策の適切な実施・指導に努めた。
- ◎ 食物アレルギーへの対応については、保護者理解のもとで円滑に実施することができた。
- ◎ 地元米利用補助金を活用し、地元特別栽培米と自主流通米との価格の差額を補い、地元米の利用促進に取り組んだ。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
学校給食施設設備の維持管理	高い	高い	現状継続
学校給食調理業務等の民間委託	高い	高い	現状継続
衛生管理や異物混入対策の徹底	普通	高い	現状継続
食物アレルギーへの対応	高い	高い	現状継続
地元産食材使用の推進	普通	高い	現状継続
学校給食を活用した食育の推進	普通	高い	現状継続

【課題・対応】

- 安全で安心な給食を提供するため、引き続き、施設・設備の維持改修を適切に行うとともに、衛生管理や異物混入防止等の指導を徹底する。
- 調理機器について計画的に修繕等を行っているものの耐用年数を経過し、修繕での対応が困難になりつつあるため、計画的に更新していく必要がある。
- 食物アレルギー対策については、対応マニュアル等に基づき、誤食事故を防止するため、引き続き学校・保護者等と綿密に連携を図り、常に細心の注意を払う。
- 地元産食材の利用拡大については、一定程度の量の確保や安定供給等の課題があり、引き続き生産者やJA等関係者と協議・連携しながら、取り組みを継続する必要がある。

⑥ 学校の適正規模・配置の推進

【取り組み・実績】

- 庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画に基づく取り組みの推進

平成28年3月に策定した教育振興基本計画の基本理念に基づき、次代を担う子供たちの学習環境をより良いものにするため、平成30年1月「庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画」を策定した。この計画の内容について理解をいただくため、学校適正配置の実施時期により3グループに分け、今年度は主に第1グループを対象に説明会等を実施した。また、第1グループ以外の対象地域や団体などからも要望があれば説明会を実施し、学校適正配置への理解を求めた。
- 廃校施設・備品等の有効活用

廃校施設内の片付けを職員作業で行い、公の施設で利活用ができず不用となった備品・教材類を、実行委員会へ販売委託を行い、市民団体・地域と協働した「リサイクル販売イベント」や「出張販売」、「業者・団体等販売」を実施。

各種イベントでの出張販売

庄原さくらフェスティバル、七夕まつり土曜夜市、空市、計3回
販売委託料 0円 売上げ 143,200円

業者・団体等販売

SLOWHAND、tumugu 計2回
販売委託料 0円 売上げ 73,400円

リサイクル販売イベント

第6回目「廃校ノスタルジア in 庄原」(11/11:旧竹地谷小学校)
販売委託料(企画・運営・広報・消耗品等の必要経費) 250千円
売上金 533,900円

※売上金は、全額物品売り払い収入(歳入)とし、教育費へ予算充当

【成果・効果】

◎ 「庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画」のスケジュールに基づき、令和3年4月に統合を計画している第1グループに属した統合校の保護者・地域を対象に、計画の説明会を実施し、計画への理解を求めている。

また、第1グループ以外についても、将来の学校のあり方や子供の教育について、自治振興区や地域、PTA連合会など各種団体へ説明や協議を行うとともに、情報提供を行った。

◎ 平成27年度末をもって廃校手続きが完了した学校施設内の片付けを職員作業で行い、不用品となった廃校等物品の「リサイクル販売イベント」や「出張販売」、「業者・団体等販売」などを行い、廃校施設・備品等の有効活用を図った。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画に基づく取り組みの推進	非常に高い	非常に高い	拡大継続
廃校施設・備品等の有効活用	高い	普通	縮小継続

【課題・対応】

- 対象の保護者や地域に対して学校適正規模・配置について説明会を開催しようにも対象の自治振興区が窓口となり、全く話し合いに応じることもなく拒否し続けている。保護者や地域の方の意見を聞く機会を設けることができるよう、努力を続けていく。
- 廃校施設内に残っている備品等の有効活用及び、不用品の処分については概ね完了した。

2 生涯学習

(1)生涯学習・社会教育の充実

① 学習機会の提供

【取り組み・実績】

○ 各種講座等の充実

- ・ 県立広島大学市民公開講座の開催

市民一人ひとりの生涯学習に対する関心が高まる中で、県立広島大学の多彩な講師陣による学習機会を設けた。大学との共催により平成2年から継続して実施し、29年目の開催となった。

前期講座「身近な話から考える食と健康」(6/28～7/19：4回講座)

※第3回講座は災害のため中止 実50人 延べ88人が受講

後期講座「平成をふりかえる」(11/1～11/21：4回講座) 実35人 延べ84人が受講

- ・ 生涯学習地域事業の実施

各地域で連携し、生涯学習事業を実施

【庄原】しょうばら菊花展 高齢化により実施困難との申し出により実施なし

【西城】小学校等への読み聞かせ出前講座を実施(講師：おはなし会) (32千円) ・西城町美展(95千円) ・であいとふれあいフェア(165千円)

【東城】ふれあい文化振興事業実施(東城文化ホールを活用した芸術作品等) (192千円)

【口和】口和中学校神楽同好会の活動支援等(133千円)

【総領】絵本読み聞かせの会支援

- ・ 成人式の実施

8/15(火)：於：庄原市民会館

式典出席者：成人者215人(対象者319人：出席率67.4%)

記念行事：庄原市山内町出身 リオデジャネイロオリンピック競泳女子200m平泳ぎ 金メダリスト金藤理絵記念講演会

記念品：図書券・記念写真

○ 人権教育の推進

- ・ 地域における人権教育学習会や講演会の充実

地域学習会：自治振興区を中心に、講師(人権推進委員等)を招いて、講演会・地域学習会を開催

【庄原】72回【西城】2回【東城】10回【口和】10回【高野】2回【比和】3回

【総領】地域学習会1回 【事業所】 事業所学習会13回

■人権講演会

【東城】人権啓発講演会(10/27 東城文化ホール) 44人

【比和】いのち輝く比和人権講演会(11/19 比和自治振興センター) 65人

【庄原】人権講演会(12/4 庄原市民会館) 278人

■人権啓発セミナー

【庄原】9/25・10/15 庄原市ふれあいセンター 11/5～6 庄原市総合体育館

【西城】2/28 西城自治振興センター

- パネル展：7/2～8/24 市内各地域で「被爆体験証言者と高校生との共同制作による原爆絵画展」を開催
- マンガパネル：10/18～12/5 市内各地域で人権啓発マンガパネルを展示
- 人権啓発映画上映：7/26～8/31 市内各地域で「校庭に東風吹いて」を上映
- ヒューマンフェスティバル2018：12/9 総領自治振興センターで映画「あん」を上映
- ・ 人権教育推進委員活動の推進
 - 人権教育推進委員 93 人を委嘱
 - 庄原地区 37 人・西城地区 9 人・東城地区 27 人・口和地区 4 人・比和地区 3 人・高野地区 8 人・総領地区 5 人
 - 人権推進員研修会（DVD 試写会） 庄原市役所 5/29 参加者 36 人
 - 県人権教育指導者養成研修会参加（神石高原町役場） 10/15 参加者 1 人
 - 各担当地域において開催される学習会、研修会等に講師、補助員として参加
- ・ 人権作品の募集
 - 応募総数 1,279 点（標語の部 1,248 作品・作文・詩の部 18 作品・ポスター絵画・写真詩画 13 作品）
 - 審査会 11/20 各部門最優秀賞 3 作品、優秀賞 21 作品、入選 27 作品を審査・選出
 - 人権講演会において最優秀賞、優秀賞を表彰 12/4
 - 優秀作品は、人権啓発事業等に活用
- ・ 啓発資料の提供・活用
 - 人権啓発ビデオ 2 本「あした咲く」「コールアンドレスポンス～ハラスメント～」を購入し、地域学習会で活用。
 - 貸出申請件数：89 件
- 放課後子供教室の充実
 - ・ 放課後子供教室 9ヶ所開設
 - ・ 放課後子供教室の拡大と放課後児童クラブとの連携
 - 庄原市放課後子ども総合プランに基づく学校の余裕教室を活用した開設は学校施設管理の問題から開設が困難なため、プランの趣旨に沿った子供に対する体験学習（放課後児童クラブの利用児童が児童クラブ開設時間内に体験活動等ができる）の実施について児童福祉課と協議を行い、子供教室未開設の学校区のある自治振興区へ体験学習の実施状況の調査と、次年度の放課後子供教室開設の要望調査を行った。
 - 「放課後子ども総合プラン」放課後子供教室の整備計画 令和元年度 14ヶ所
 - 放課後子供教室開設状況：10ヶ所（連携型 3ヶ所（庄原・比和・上高（未来塾））
 - 放課後子ども総合プランの趣旨に沿った子供の体験学習の実施状況：3ヶ所
- 地域課題等に対する学習活動の推進
 - ・ 地域力醸成事業の推進
 - 住民自らが地域課題の解決に向けた活動に結びつけていく力を醸成するため、現代的課題や地域の課題を解決する事業を、自治振興センターを中心に展開した。
 - 年間開催 60 事業 参加者 2,689 人

【成果・効果】

- ◎ 県立広島大学との連携により、市民の学習機会を提供することができた。前期は受講者アンケートに基づいた市民の関心の高い内容としたため、過去講座に比べて受講者が増加した。後期は、平成最後の公開講座ということで時代を振り返る内容とした。また、過去講座で好評で

あった、県立広島大学学生を講師とした講座も開設し、受講者も多かった。

- ◎ 各地域において、学習成果を地域社会の中で生かしていけるような場を提供することで、市民の学習意欲の向上につながった。
- ◎ 庄原市出身の金メダリストによる成人式の講演会は、自らの経験をもとに、新成人を激励し、勇気づける良い機会となった。
- ◎ 成人祝賀パーティを廃止し、実行委員による各中学の校舎等の写真ポスター展示を行い、地元を懐かしく思い、愛着を感じるコーナーを設けた。
- ◎ 自治振興区を中心とした地域ごとでの地域学習会の開催により人権教育を推進している。市民生活課による人権啓発映画の上映、人権啓発行事等の啓発活動への参加促進とあわせて、市民の人権学習機会の場を提供している。
- ◎ 人権教育推進委員は現在 93 名委員委嘱しており、地域学習会の開催やその支援にかかわっている。学習会前の事前学習でDVDを借りに来る方もいる。
- ◎ 人権意識の高揚と意識啓発を図ることを目的として、人権啓発のための作品を募集し、人権問題について考える機会を設けた。
- ◎ 人権作品については、今年度、保育所や一般市民からの応募もあった。
- ◎ 庄原市企業人権啓発推進連絡協議会においても資料提供することにより、地域だけでなく、企業でも人権学習会で利用され、人権について考えるきっかけとなっている。
- ◎ 今年度から新たに庄原自治振興区において子供教室を開設した。今までの放課後児童クラブの補完型ではなく、自治振興区による子供の体験教室として実施している。
- ◎ 各自治振興区等で地域課題解決のための講座等を活発に実施している。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
県立広島大学市民公開講座の開催	高い	高い	現状継続
生涯学習地域事業の実施	高い	高い	現状継続
成人式の実施	高い	高い	現状継続
地域における人権学習会や講演会等の充実	高い	非常に高い	現状継続
人権教育推進委員活動の推進	高い	非常に高い	現状継続
人権作品の募集	高い	高い	現状継続
啓発資料の提供・活用	非常に高い	非常に高い	現状継続
放課後子供教室の拡大と放課後児童クラブとの連携	普通	高い	拡大継続
地域力醸成事業の推進	高い	非常に高い	拡大継続

【課題・対応】

- 県大公開講座は、受講者が固定化の傾向はあるが、前期講座においては新規受講者も多数みられた。アンケート結果などを参考に、関心の高い内容をテーマ設定し、より多くの市民に情報提供を行っていく必要がある。
- 各種事業の際、災害時の連絡体制について整理が必要である。申し込みの際に電話番号を聞き取るなどして、緊急時に連絡することを伝えておく。
- 生涯学習地域事業においては、高齢化等の要因により、事業実施が困難となる事業もある。運営・周知方法等の見直しが必要である。
- 成人式において、展示コーナーの配置により、ロビーの混雑等が見られた。今後の実行委員として関わり方について検討が必要。実行委員の立候補が少なく、地域への推薦をするが選任が難しい。広報や選任方法の検討が必要。
- 地域により人権学習の機会の持ち方や参加の仕方が異なり、統一的な地域学習会とはなっていない。

- 地域学習会の開催を促すとともに、市民生活課が実施する講演会等への参加の働きかけ、市民が参加しやすい学習の場を提供する。
- 積極的に活動する委員を自治振興区から推薦いただいているが、地域により人権教育推進員の関わり方が異なる。
- 人権教育推進員の県主催研修会への参加が少ない。地域学習会の開催や啓発事業や研修会への参加促進を働きかける。
- 人権作品募集では、一般市民からの応募が少ないため、広く市民の目に触れる情報提供を行う必要がある。学校の取り組み状況に差があるため、実施依頼の際に電話等でも取り組みの声かけを行う。
- 様々な視点から人権について学習できるよう幅広い資料提示を行う。
- 引き続き、自治振興区が放課後児童クラブの利用児童も参加できる体験活動等の充実を図り、他の事業との連携を兼ねた放課後子供教室の開設に向け、情報収集を行う。
- 学校の適正配置後の子供教室運営体制についての情報収集と開設に向けた整備を行う必要がある。
- 地域力醸成事業では、効果の高い事業をより充実させる必要がある。

② 学習活動の支援

【取り組み・実績】

- 自治振興区における生涯学習の推進
 - ・ 生涯学習委託事業の充実

各自治振興区に生涯学習事業を委託し、生涯学習活動と自治振興活動を一体的に推進することにより、各地域において地域活動と連動し、特色を生かした生涯学習事業を実施している。（22自治振興区）

平成30年度から事業評価を実施しており、自治振興区巡回事業において評価対象事業2事業を選定するなど、事業評価の手法について説明をした。

また、評価対象事業の観察を行い、実施状況の把握に努めた。
 - ・ 自治振興区職員研修会の実施及び各種研修会への参加の促進

自治振興区職員の資質向上を目的に、研修会の開催、各種大会・研修会等に参加した。

県等主催の研修会等

 - 5/21：県生涯学習振興・社会教育関係職員研修基礎研修（三次市・参加者7人）
 - 6/22・7/20：県生涯学習振興・社会教育関係職員研修学習プログラム研修（三次市・参加者7人）
 - 7/27・9/10：県生涯学習振興・社会教育関係職員研修社会教育主事等研修（福山市・広島市：参加者4人）
 - 10/10：県公民館大会（福山市・参加者8人）
 - 11/1・11/2：全国公民館研究集会東京大会（東京都・参加者3人）
 - 11/28・11/29：県公民館等職員研修（大竹市・庄原市・参加者15人）
 - 3/2：県生涯学習研究実践交流会（広島市・参加者3人）

市主催研修会

 - 1/19：第1回自治振興センター職員等研修（参加者17人）
 - 3/12：第2回自治振興センター職員等研修（参加者9人）

- 社会教育関係団体等の育成・支援
 - ・ 地域女性団体連絡協議会、子ども会連合会等の活動支援
 - 庄原市地域女性団体連絡協議会
 - 男女共同参画社会を目指し、生活者の立場から地域コミュニティづくりを目指す庄原市地域女性団体連絡協議会の各種活動を支援。
 - 庄原市子ども会連合会
 - 子供育成の指導者を養成し、青少年健全育成に寄与する庄原市子ども会連合会の各種活動を支援。
 - 庄原市青年団体
 - 地域で開催する各種事業を通して、若者同士の交流をはじめ地域住民との相互連携を図ることを目的に活動する青年団体を支援。
- 生涯学習情報の収集及び発信
 - ・ 広報誌や市ホームページ等の活用
 - 各自治振興センターより広報誌を収集し、他の自治振興センターへ情報提供を行っている。月1回月刊公民館の特集記事をメールで各自治振興センターへ提供。
 - ・ 生涯学習事業実践事例集等学習情報の提供
 - 自治振興センターで実施される生涯学習委託事業若しくは地域力醸成事業から1事例を選定して事例集を作成し、市ホームページ上で公開した。

【成果・効果】

- ◎ 生涯学習委託事業では、評価対象事業の選定・モニタリングを実施し、事業実施の状況把握に努めた。
- ◎ 県等が主催する研修会への参加を促進するとともに、市教育委員会主催の研修会を開催し、社会教育推進に必要な知識の習得や理解を深めるとともに、自治振興区職員の相互交流を通じた関係づくりを促した。
- ◎ 各種社会教育団体への支援により、市内社会教育団体の活動の活性化を図った。補助金の見直し、説明等を行った。
- ◎ 自治振興センターでの取り組みや、全国的な情勢等についての情報提供を行うことで、事業実施の参考となった。
- ◎ 自治振興センター等で行われた効果的な事業の情報提供を行うことで、他の自治振興センターにおいても事業実施の参考となった。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
生涯学習委託事業の充実	高い	非常に高い	現状継続
自治振興区職員研修会の実施及び各種研修会への参加促進	高い	非常に高い	拡大継続
地域女性団体連絡協議会、庄原市子ども会連合会等の活動支援	普通	低い	改善継続
広報誌や市ホームページ等の活用	高い	高い	現状継続
生涯学習事業実践事例集等学習情報の提供	高い	高い	現状継続

【課題・対応】

- 効果の高い事業をより充実させると共に、生涯学習事業としての質的向上を図る必要がある。
- 事業数が多く、内容も多岐にわたり、社会教育主事が計画段階から関わることが困難であるため、自治振興区と連携しながら事業を推進する。

- 社会教育推進のための共通した理解を基に、各地域で必要な課題に対応した事業が展開されるよう、引き続き職員研修を充実し、自治振興センター職員の能力向上を図る必要がある。
- 支部の減少による補助金額や、活動内容について見直し、指導していく必要がある。
- 市ホームページや市公式フェイスブックを通じて情報提供することで、共有を図る必要がある。

③ 読書環境の充実

【取り組み・実績】

- 図書館機能の充実
 - ・ 図書館資料の整備
平成30年度 3,762冊 6,299,891円計画的に購入
 - ・ 図書館サービスのための人材育成及び運営体制の充実
県主催の研修会参加を働きかけ、電話等にて随時支援
分館訪問を2回実施し、実態や要望などの聞き取り
2月の蔵書点検の際には、各分館を業者と回り機器の操作方法を研修
- 子供の読書活動の推進とネットワークの構築
 - ・ 庄原市子供の読書活動推進計画（第三次計画）の推進
絵本・児童書等の除籍本を、子育て支援施設や庄原斎場のキッズコーナーに提供
毎月、テーマを決めて、絵本や児童書の企画展示を実施
ヤングアダルトコーナーの充実
子供司書の受け入れ人数を拡大。
平成28年度：12名→平成29年度：14名→平成30年度：18名
 - ・ 赤ちゃんが絵本に触れ合う活動
平成23年度から「赤ちゃんが絵本にふれあう活動」として4カ月児と1歳6カ月児を対象に絵本を配布し、読書活動の大切さを伝えている。
平成30年度は4カ月児へ176冊、1歳6カ月児へ187冊配布
 - ・ 読書活動ボランティアの育成・支援（ネットワーク化の推進）
おはなしボランティア講座の開催
12/2『絵本の楽しみと読み語りの手法』 参加者16人
1/26『図書館の本を使っておはなし会を組み立てましょう』 参加者14人
3/17『わらべ歌と語りの世界をたのしみましょう』 参加者14人
読書ボランティア団体の定期のおはなし会開催の支援。
(本館月1回・西城年6回・東城月1回・口和月1回・高野月1回・比和月1回・総領月1回)

【成果・効果】

- ◎ 幅広い分野から選書し、多くの市民の図書利用があった。
- ◎ 図書館や学校等において、読書ボランティアによるおはなし会や読み聞かせを行うことで、子供が本に触れ合う機会や環境を整えることが出来た。
- ◎ 読書ボランティアと図書館職員が協力し、多くの子供に、絵本に触れ合う機会を提供できた。
- ◎ 読書ボランティア交流会において、読書ボランティアだけでなく、学校司書や学校関係者等と情報交換を行い、ネットワークを広げることができた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
図書館資料の整備	非常に高い	非常に高い	拡大継続
図書館サービスのための人材育成及び運営体制の充実	非常に高い	非常に高い	現状継続
庄原市子供の読書活動推進計画（第三次計画）の実施	非常に高い	非常に高い	拡大継続
赤ちゃんが絵本に触れ合う活動	非常に高い	非常に高い	拡大継続
読書活動ボランティアの育成・支援（ネットワーク化の推進）	非常に高い	非常に高い	現状継続

【課題・対応】

- 計画的な図書購入を行う。
- 研修の機会を充実すると共に、より多くの職員の参加を促す必要がある。
- 子供の読書活動に関わる機関との情報共有、意見交換が不足している。
- 1歳6ヶ月児から小学校入学までの子供の読書機会充実に向けた取組を行う必要がある。
- 引き続き、読書ボランティア等のネットワーク構築を行う。

(2) 芸術・文化の推進

① 芸術・文化活動の推進

【取り組み・実績】

- 芸術・文化意識の高揚
 - ・ 庄原市田園文化センターにおける庄原市美術展覧会・県美展巡回展・文化講演会の開催
庄原市美術展、前期展 11/1～6、後期展 11/10～14 入場者数 394人（前年度 537人）
応募作品 136点
広島県美術展：9/5～9 入場者数 339人（前年度 318人）
備北丘陵公園と連携して、文化講演会「明治150周年記念」を開催：11/3 80人参加
 - ・ 市役所ロビーコンサートの実施・拡大 100回記念事業への準備体制の構築
毎月第4月曜日の昼休憩時（12:15～13:00）に開催。11回開催（7月は豪雨災害の影響により中止）・来場者数約1,100人
6月・9月には東城支所市民ホールにおいて夕方（17:30～18:30）に開催。
2回開催・来場者数約250人
 - ・ けんみん文化祭ひろしま備北地区フェスティバル庄原大会の開催支援
生涯学習の活動、発表の場でもあり、次年度のけんみん文化祭県大会の予選会でもある備北地区フェスティバルの開催を支援。3/17（庄原市民会館）
 - ・ 本物の芸術・文化に触れる機会の提供
「あおぞら金管合奏団」「ベルクワチュール」が市内の保育所（敷信みのり・庄原北・西城）・小学校（山内・庄原・高・板橋・永末）を巡回し、ミニコンサートによる、児童・園児に生演奏を聴く機会・身近に芸術に触れる機会を提供。
本物の舞台芸術体験事業として、市内小学生（5・6年生）と引率教諭を対象に、広島交響楽団による「オーケストラ音楽鑑賞教室」を実施。
参加小学校数：19校 参加者数：672人
ミニコンサート及び楽器指導（あおぞら金管合奏団ほか）
参加保育所数：2所 参加者数：140人、参加小学校：6校 参加者数：652人
- 文化団体等の育成・支援
 - ・ 庄原市文化協会等の活動支援

市内の文化団体並びに会員相互の交流を進め、文化的な教養の充実を図るとともに、連携して市民の文化活動の振興と地域文化の高揚を図ることを目的に活動する庄原市文化協会の活動を支援した。

庄原支部をはじめ、旧町単位の各支部での活動のほか、庄原文芸大会、会報「しょうばらの文化」「庄原文芸」の発行や、共催事業として庄原市美展の開催、アート多愛夢の運営。

- ・ リーダーや指導者育成のための研修機会の設定

ミュージカルを通して子供の表現力や創造力を養い、舞台芸術に触れることでこれからの文化芸術の担い手を育成するため、第19回公演を迎えた庄原こどもミュージカルの活動を支援した。(2,500千円)

「ふしぎの国のアリス」開催 10/14(2回公演) 庄原市民会館

○ 芸術・文化施設の活用促進

- ・ 庄原市民会館・東城文化ホール等の利用促進

[庄原市民会館]

市民の文化の向上及び住民福祉の増進を図るために設置している庄原市民会館の管理運営。

6/10 川中美幸コンサート 入場者数：1,029人

7/2 本物の舞台体験事業「広島交響楽団オーケストラ音楽鑑賞教室」
入場者数：672人

8/18 風間杜夫ひとり芝居「ピース」 入場者数：182人

11/11 映画上映会「リメンバー・ミー」 入場者数：174人

11/21 グランプリコンサート2018「クワチュオール・ザイール」 入場者数：214人

12/7 NHK公開録音「ふるさと自慢うた自慢」 入場者数：766人

2/23 宝くじふるさとワクワク劇場 入場者数：661人

指定管理期間：平成29年4月1日～令和4年3月31日

指定管理料：34,465千円・施設修繕費：1,775千円・工事請負費：8,102千円

[東城文化ホール]

市民の文化の向上及び住民福祉の増進を図るために設置している東城文化ホールの管理運営。

5/19 泥落とし映画会「湯を沸かすほどの熱い愛」 入場者数：265人

6/9 旭爪姉妹コンサート 入場者数：210人

8/20 夏休み子ども映画劇場「SING」 入場者数：200人

8/25 林家ひろ木ふるさと落語会 入場者数：200人

10/14 ふれあいステージ(共催) 入場者数：350人

11/24 琴演奏会 入場者数：150人

1/20 東城ミュージックコンサート 入場者数：550人

3/2 東城自治振興区まつり発表会 入場者数：500人

指定管理期間：平成30年4月1日～令和5年3月31日

指定管理料：4,500千円・施設維持管理経費：光熱水費等：3,539千円

工事請負費：152千円

- ・ 庄原市田園文化センターの利用促進及び適切な管理運営

敷地賃借契約：田園文化センター敷地について平成30年度から20年契約：年2,870千円

A重油焚吸収冷温水機交換・ファンコイルユニット交換工事(繰越明許)：21,600千円

指定管理者制度の導入について協議・検討を重ねている。

【成果・効果】

- ◎ 市美展の出品作品は前年度より増加し、力作が多かった。特に書道の部高校生から多く応募があった。
- ◎ 庄原市民会館の大ホール前トイレの洋式化により、快適に利用いただけるようになった。
- ◎ ロビーコンサートは、広く市民に定着している。また、前年度に引き続き、東城支所においても6月と9月の2回実施し、大変好評であった。
- ◎ けんみん文化祭への出場は、出演者の目標となっており、レベルアップにつながっている。
- ◎ ワークショップにより、子供たちが学校で本物の芸術に触れる機会を提供できた。
- ◎ 庄原市文化協会への支援により、庄原市の文化活動の活性化を図った。
- ◎ 各種団体に対し、補助金の見直し説明を行った。
- ◎ こどもミュージカルを通して、子供の健全育成を図った。補助金の見直し、説明を行った。
- ◎ 指定管理により施設を管理するとともに、各種ホール活用事業の実施により、市民に芸術、文化に触れる機会を提供した。
- ◎ 庄原市民会館においては、NHKとの連携や各種助成事業を活用した公演を企画することで来場者の幅を広げた。
- ◎ 東城文化ホールにおいては、市民に身近な会館となるよう市民向けの照明、音響研修会等を実施している。
- ◎ 東城文化ホール入口に「東城自治振興センター」「東城文化ホール」を併記した看板を設置し、来場しやすい環境づくりに努めた。
- ◎ 田園文化センター多目的ホールでは、市民団体等の展示会・講演会で活用のほか、県美展庄原巡回展、市美展を開催し、市民の芸術文化活動の振興を図った。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
庄原市美術展覧会・県美展巡回展・文化講演会の開催	普通	普通	改善継続
市役所ロビーコンサートの実施・拡大 100回記念事業への準備体制の構築	高い	高い	現状継続
けんみん文化祭ひろしま備北地区フェスティバル庄原大会の開催 支援	高い	普通	現状継続
本物の芸術・文化に触れる機会の提供	高い	普通	現状継続
庄原市文化協会等の活動支援	高い	普通	現状継続
リーダーや指導者育成のための研修機会の設定	高い	高い	現状継続
庄原市民会館・東城文化ホール等の利用促進	高い	高い	現状継続
庄原市田園文化センターの利用促進及び適切な管理運営	高い	高い	現状継続

【課題・対応】

- 市美展の入場者数が、年々減少している現状がある。広報活動を充実する必要がある。
- 本市ゆかりの音楽活動家について情報収集が必要である。
- けんみん文化祭備北地区フェスティバルでは、各地域・分野からの出演について偏りがある。
- より多くの子供達に本物の芸術・文化に触れる機会を提供する必要がある。
- より多くの市民を文化活動に巻き込むため広報等の支援を行う必要がある。
- 文化協会や関係団体と連携して、研修の情報提供や、機会を増やしていく必要がある。
- 庄原市民会館については、施設の老朽化により、利用者ニーズに十分に対応できない状況にある。
- 市街地公共施設のあり方検討委員会からの報告を受け、庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備に関する市の方針を定めた。

- 田園文化センターは平成元年開館時以降、30年が経過し、老朽化が進み、あわせて多目的ホールも雨漏れによる壁面、床、天井への汚れが目立つ状態になっている。

② 文化財の保存・活用

【取り組み・実績】

- 文化財の保護・管理の推進
 - ・ 指定文化財の草刈等の環境整備
日常管理業務の実施
重要文化財（建造物）「市指定西原八幡神社本殿」の保護管理事業に係る補助金交付
史跡名勝天然記念物の草刈等環境整備事業
 - ・ 佐田谷・佐田峠墳墓群発掘調査報告書の発行
佐田谷・佐田峠墳墓群発掘調査報告書調査編1～3を発行し、その総括調書の取りまとめ
について調整を行った。（総括報告書の発行については令和元年度発行予定）
 - ・ 佐田谷・佐田峠墳墓群の国史跡指定に向けての調整
広島県教委・文化庁調査官と、事業の調整を行った。
- 文化財の活用推進
 - ・ 比婆いざなみ街道物語の推進
沿線文化財群利活用事業として、沿線の文化財管理のほか講演会を実施するとともに、沿
線文化財群案内標識及び説明看板を設置し、比婆いざなみ街道物語の推進に取り組んだ。
いざなみ街道物語文化財講演会（3/24 参加者 30名）は、「東城町の文化財」と題し、時
悠館で開催した。
文化財の案内標識と説明看板については、未作成の物件を中心に作成に取り組み、新に比
和「アカイタヤ」と「吾妻山の備北層群」等の看板を設置した。
（活用事業 337千円、看板設置事業 773千円）
 - ・ 文化財ガイド養成講座の実施
庄原市観光協会と連携してガイド養成講座（3/16 参加者 21名）を実施した。
- 文化財の継承・啓発
 - ・ 無形民俗文化財保存団体への支援
通年の無形民俗保持団体への補助金支援を実施するとともに、庄原市民俗芸能協議会を通
じて連携を図った。
今年度は、塩原の大山供養田植え現地公開（5/27 参加者：約1,500名）にかかる支援、
比婆荒神神楽衣装新調にかかる支援をそれぞれ実施した。
 - ・ 市史・町史誌の活用促進
ふるさと納税での贈呈や関係者への配布等を通じて、活用促進に努めた。
 - ・ 文化財調査年報（文化財だより）の発行
文化財調査年報の作成に取り組んだ。
 - ・ 文化財指定への取り組み
文化財保護審議会委員による各地域の文化財調査を実施し、指定候補物件の調査に取り組
んでいる。今年度の庄原市文化財保護審議会での新たな史跡指定の計画説明を行った。
- 埋蔵文化財への対応
 - ・ 開発に伴う埋蔵文化財の協議・届出等への対応
埋蔵文化財協議及び届出等について、早期に実施できるよう、申請者等と綿密な調整を行
った。（平成30年度 68件）

- ・ 埋蔵文化財発掘調査資料の整理
 引き続き、平成 29 年度に調査を実施した東城町大天神古墳と東城町芝山たたら跡の発掘調査整理作業を行い、「大天神古墳」の報告書を作成した。(505 千円)
 平成 30 年度緊急発掘調査を実施した下高野山古墳の発掘調査及び資料整理を実施した。(芝山たたら跡発掘調査は林道事業の工程変更で令和元年度に移行)
 (埋蔵文化財調査整理事業 948 千円)
- ・ 庄原市埋蔵文化財センターオープン、活用の充実
 平成 29 年度に改修事業が終了し、平成 30 年度から各地域に分散していた埋蔵文化財資料・報告書等を一括して埋蔵文化財センターに移行し、整理を行った。
 8 月 7 日にはオープン行事を実施し 100 名もの参加者を得て盛会に終了した。
 オープン後は、収蔵資料を活用し、郷土学習支援事業の展開を図った。
 (埋蔵文化財センター2,010 千円、管理経費 1,066 千円)

【成果・効果】

- ◎ 文化財の保存活用に一定の効果があつた。
- ◎ 国指定に向けての資料整理及び報告書作成の調整ができた。
- ◎ 佐田谷・佐田峠墳墓群発掘調査報告書 1～3 を元に、当該墳墓群の価値付けを行うことが出来た。
- ◎ 比婆いざなみ街道関連の文化財管理を実施し、文化財の保存に一定の成果があつた。
- ◎ 比婆いざなみ街道関連の案内板・説明板を設置し、文化財の周知に努めた。
- ◎ 庄原市観光協会と連携した事業推進にあたり、引き続き協議を行っている。
- ◎ 無形民俗文化財保持団体の活動を支援することにより、保存継承への環境づくりを行った。
- ◎ 国重要無形民俗文化財「塩原の大山供養田植」の 4 年に 1 度の現地公開に補助金を支給し、文化財の公開普及に努めた。
- ◎ 市史・町史については、ふるさと納税の返礼品や専門機関への提供等により活用を図った。
- ◎ 文化財だよりの発行により文化財の業務内容を広く周知することができた。
- ◎ 引き続き市内に存在する未指定の文化財の掘りおこしに努めた。
- ◎ 開発に伴う埋蔵文化財については、HP 等に掲載するなど施行業者に周知が行き届き、文化財協議も円滑に進めることが出来た。
- ◎ 年度途中で依頼された緊急発掘調査にも迅速に対応できた。
- ◎ 庄原市埋蔵文化財センターを改修し、8 月 7 日にオープンした。このことにより、分散していた資料の整理をするとともに、埋蔵文化財の拠点施設として活用の充実を図った。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
指定文化財の草刈等の環境整備	普通	高い	現状継続
佐田谷・佐田峠墳墓群発掘調査報告書の発行	高い	高い	現状継続
佐田谷・佐田峠墳墓群の国史跡指定に向けての調整	高い	高い	現状継続
比婆いざなみ街道物語の推進	高い	非常に高い	拡大継続
文化財ガイド養成講座の実施	非常に高い	高い	現状継続
無形民俗文化財保存団体への支援	普通	高い	改善継続
市史・町史誌の活用促進	普通	非常に高い	現状継続
文化財調査年報（文化財だよりの発行	普通	普通	現状継続
文化財指定への取り組み	普通	普通	現状継続
開発に伴う埋蔵文化財の協議・届出等への対応	高い	高い	現状継続
埋蔵文化財発掘調査資料の整理	高い	非常に高い	現状継続
庄原市埋蔵文化財センターオープン、活用の充実	普通	普通	現状継続

【課題・対応】

- 文化財管理者が高齢になり、管理が困難になってきている。
- 佐田谷・佐田峠墳古墳群の国史跡指定については、総括報告書の作成など文化庁から追加指導もあり、引き続き文化庁・県教委と調整しながら事務を進める。
- いざなみ街道物語事業において今後の活用方策を検討する必要がある。
- 庄原市観光協会のボランティアガイドについては、窓口を一本化する必要があり、令和元年度に向けて計画を検討する。
- 民俗文化財保持団体構成員の高齢化により、若い世代への継承が必要である。
- 市史・町史の新たな販売ルートの確保等が課題となっている。
- 今後も継続して市史・町史の周知及び活用を図る。
- 庄原市文化財保護審議会と連携して指定文化財候補の調査を実施する。
- 文化財について突発的な業務が多く、埋蔵文化財調査計画が立て難い。
- 今後は庄原市埋蔵文化財センターで、市内全ての埋蔵文化財資料の整理を実施する。
- 庄原市埋蔵文化財センターの職員が常駐ではないので、日常管理が課題となっている。

③ 博物館・資料館の活用

【取り組み・実績】

- 博物館・資料館機能の充実
 - ・ 庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画（第2期）に基づく各種事業の推進計画を基に担当者会議において、取り組みの確認・協議をしながら事業の実施等を行った。
 - ・ 比和自然科学博物館・地学分館の管理・運営
 - 自然科学の調査研究を進めると共に、巡回写真展、ミニ企画展、グリーンラリー及び博物館公開講座（全9回）を開催し、自然科学への興味や関心を喚起する啓発事業を実施した。
 - 前年度から実施している取り組みとして、宮島水族館の協力の下でペンギンに触れるイベントを行い、博物館に対する興味関心を引く取り組みを実施した。合わせて、当博物館出張講座として、宮島水族館において化石の学習及び簡易な発掘体験講座を行い、県南部においても博物館の周知ができた。
 - 7/21 から9/2 ミニ企画展「このムシなんだ！～身近にある新発見～」を開催した。
 - 吾妻山植物誌を発行することで、研究成果を社会に還元でき、神話に縁のある吾妻山が学術的にも価値が高いことを周知することができた。
 - 博物館所蔵品の貸出により、鳥取県立博物館の企画展「とっとりの化石展」及び「大大山展」に協力し、県外における周知が図れた。
 - HPでの周知を図ると共に、市内学校等への周知などを実施し、4月から6月までの入館者は増加したものの、7月豪雨災害の影響を受け、来館者数は減少した。
 - ・ 帝釈峡博物展示施設時悠館（帝釈峡まほろばの里含む）の管理・運営

【時悠館】

運営方針見直し・公表、ホームページ更新、アンケート分析等を行い、館運営の改善を図った。

多種多様な関係機関との連携を進め、開館15周年記念夏の企画展

「大山開山1300年と大山供養田植」、同秋の企画展「庄原市遺跡発掘15年の歩み」、東城小6年生との共同研究及び「おもしろ展示企画」、新春パネル展「わたしにもできる！獣害対策」を実施した。

入館者 2,490 人

(平成 27 年度 : 1,930 人、平成 28 年度 : 1,573 人、平成 29 年度 : 1,821 人)

【帝釈峡まほろばの里】

東城小 6 年生の協力を得て、「鬼橋野路古墳（市史跡）」「復原竪穴住居」の魅力発信を進めた。

交流促進センターの施設管理に努め、オートキャンプ場の利用促進を図った。

帝釈自治振興区との連携を見直し、帝釈峡ウォークを共同開催した(悪天により当日は開催中止)。

- ・ 庄原市歴史民俗資料館（火野葦平と母マン資料室・西城・総領収蔵学習室含む）の管理・運営

収蔵資料、寄託資料等の整理を行った。

館内照明の LED 化（予算の範囲内で年次的実施）

庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画（第 2 期）に基づいた事業の実施に努めた。

文化講演会「庄原の歴史文化を未来に繋ぐ」実施 3/23 開催 参加人数 39 人

歴史民俗資料館パンフレットを作成

歴史民俗資料館のくん蒸実施。

- ・ 倉田百三文学館の管理・運営

見学・郷土学習研修の受け入れを行った。（1 団体 21 名）

- ・ 口和郷土資料館の管理・運営

所蔵品の常設展示、映画会、真空管アンプやふれあいコンサート等のイベントを実施

資料の収集・保管・維持修繕・各学校等の講師を積極的に行い PR や集客に努めた

- ・ 博物館、資料館の連携

各博物館・資料館の収蔵資料の相互協力や、他館への貸し出しを行った。特に、平成 30 年度にオープンした庄原市埋蔵文化財センターの収蔵資料を時悠館の特別展に合わせて貸し出しを行った。

○ 連携・啓発事業の展開

- ・ 収蔵資料の出前展示や資料貸出等の活用と整理

例年の丘陵公園たたらイベントに合わせて、西城収蔵学習室の資料を貸し出して活用を図った。また、広島県立歴史博物館や広島県立歴史民俗資料館への展示貸出等を実施した。

- ・ 学校と連携した体験学習や出前授業の充実

引き続き、バス支援を中心とした学校との連携事業を実施した。東小学校他への歴史学習へのバス貸出や出前授業を実施した。

- ・ 地域や観光と連携した講座の推進と支援

備北丘陵公園と連携して、「明治 150 周年記念」文化講演会を開催（11/3）80 人参加

【成果・効果】

◎ 庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画（第 2 期）の取り組みが充実してきた。

◎ 各博物館・資料館の特別展等において資料の相互協力を図るなど、連携体制が図られつつある。

◎ 地域学習の一環としてバス利用や出前授業等一定の効果があつた。

[比和自然科学博物館・地学分館]

◎ 県内唯一の自然系博物館として、安定的な入館者を得ており、また、学習の場（知的遊園地）としての役割を担うことができた。

◎ 宮島水族館との連携を継続し、県北にとどまらない事業展開ができた。

[帝釈峡博物展示施設時悠館]

◎ 庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画（第2期）の期間内目標達成のため、運営方針を見直し、目標達成型の事業計画に改め、実施した。

未着手であった「多様な主体との連携」を進め、東城小学校・観光協会・自治振興区・県機関・他自治体等と連携し、事業を行った。

◎ 東城小学校と連携した博物館事業の取り組みがあり、子供目線での分かりやすい展示内容にすることが出来た。

[庄原市歴史民俗資料館倉田百三文学館]

◎ 市内のガイダンス機能を持たせるため、展示施設の改修を図っている。

◎ 全国的にも著名な文豪、倉田百三の展示施設としてPRしている。また、パンフレットを作成し普及に努めた。

◎ 西城のたたら資料は他施設への貸出が定着しつつある。引き続き色々な分野との提携を行い、資料の活用を充実させる。

◎ 備北丘陵公園との講演会の実施に伴い、収蔵資料の出張展示等を実施した。

[口和郷土資料館]

◎ メディアを活用してのPRや、他に類を見ない音響機器の展示施設として、広く認知度を高めている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画（第二次）の推進	高い	高い	現状継続
比和自然科学博物館・地学分館の管理・運営	高い	高い	現状継続
帝釈峡博物展示施設時悠館（帝釈峡まほろばの里含む）の管理・運営	高い	高い	現状継続
庄原市歴史民俗資料館（火野葦平と母マン資料室西城・総領収蔵学習室含む）の管理・運営	高い	高い	現状継続
倉田百三文学館の管理・運営	高い	高い	現状継続
口和郷土資料館の管理・運営	高い	高い	現状継続
博物館、資料館の連携	普通	普通	現状継続
収蔵資料の出前展示や資料貸出等の活用と整理	普通	普通	現状継続
学校と連携した体験学習や出前授業の充実	普通	高い	現状継続
地域や観光と連携した講座の推進と支援	普通	普通	現状継続

【課題・対応】

- 複数ある施設との連携・調整が不十分な面があり課題となっている。
- 博物館周知の基本となるHPでの内容充実や周知用チラシの作成等の実施と合わせて、冬季の入館者対応を検討する。
- 時悠館は、開館15年を経ても認知度が向上していない状況が見られるため、情報発信及び魅力化の方法を見直す必要がある。
- 帝釈峡観光に寄与すべきまほろばの里が十分に活用されておらず、観光関係者とともに施設管理の在り方を見直す必要がある。
- 庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画（第2期）に基づき、各博物館資料館の事業を連携しながら事業実施を図る。

(3)生涯スポーツの振興【第2期庄原市スポーツ推進計画の推進】

① スポーツ活動の推進

【取り組み・実績】

○ 地域スポーツの推進

- ・ 地域のスポーツイベントへの支援
 - 第28回庄原市スポーツフェスティバル
 - 7/8 総合開会式は、豪雨災害のため中止
 - 6/23～8/26 各種競技実施（市内各スポーツ施設）
 - 実施種目 14種目、参加人数 1,310人
 - *庄原市体育協会委託事業（委託料 1,150千円）
 - 第13回庄原市民健康づくりグラウンド・ゴルフ大会 10/20（田総の里スポーツ公園）
 - 30チーム参加（参加者 150人）
 - 第55回東城地区総合体育大会 10/7 6種目 675人
 - 第68回四県四郡市総合体育大会 8/12 庄原市開催 庄原市総合順位 1位
 - 庄原市から 10種目 312名が出場 全体参加者 949名
 - 第19回ひろしまクロスカントリー大会 8/18（道後山高原クロカンパーク）
 - 参加申込者 1,838人
 - 第67回庄原市スター式駅伝 12/2 64チーム参加
 - 第23回かさべるで杯親善ゲートボール大会は、災害のため中止
 - その他、各種スポーツ団体主催の大会、イベント等の支援
- ・ スポーツ推進委員活動の推進
 - スポーツ推進委員を委嘱し、各地域における活動のほか、各種研修会等へ参加するなど、各委員の資質の向上に努めた。 任期：平成29.4.1～平成31.3.31 委員数 44人
 - 中国地区スポーツ推進委員研修会（兼）広島県スポーツ推進委員研究大会
 - 6/16.17（広島市） 17人
 - 庄原市障害者スポーツ体験会 7/5（ふれあいセンター） 28人
 - 障がい者スポーツ指導員（中級）養成講座 8/24～26 2人
 - ” （中級）養成講座 11/23～25 2人
 - ” （中級）養成講座 2/9～11 2人
 - 広島県女性スポーツ推進委員研修会 9/8（東広島市） 災害のため中止
 - 備北地区スポーツ推進委員協議会研修会 10/14（三次市） 16人
 - 庄原市障害者スポーツ体験会 11/8（上野総合公園陸上競技場） 32人
 - 全国スポーツ推進委員研究協議会鹿児島大会 11/15.16（鹿児島市） 10人
 - 障害者スポーツ指導者全国研修会 12/15.16（広島市） 9人
 - 広島県新任スポーツ推進委員研修会 12/16（広島市） 参加者なし
 - 障がい者スポーツ指導員（初級）養成講座 1/12.13.14（東広島市） 1人
 - 障害者スポーツ体験会 1/26（ふれあいセンター） 18人
 - 広島県総合マネジメント研修会 2/17（ふれあいセンター、総合体育館） 27人
- ・ 市民スポーツ教室の推進
 - 健康づくりや体力づくり、各種競技の技術力の向上を目的に市民が気軽に参加できるスポーツ機会の提供を行う事業として、庄原市総合体育館の指定管理者である庄原市総合サービス㈱に委託し、継続的に教室を展開した。（テニス教室など、7教室を開催している。）

- ・ ニュースポーツ、軽スポーツの普及
 気軽にスポーツに親しむことができる機会を提供し、市民相互の交流を深めるとともに健康づくりを図り、生涯スポーツ社会の普及・定着を目的として、総合型地域スポーツクラブ「庄原さくらスポーツクラブ」への委託事業として実施した。
 ラージボール卓球、ミニテニスなど9教室及びトレーニングアドバイスなど行った。
 また、地域からの要望により、出前講座を行った。
- スポーツ団体の育成・支援
 - ・ 庄原市体育協会の活動支援
 各主催行事に連携・協力した。
 補助金：5,100千円（運営費）
 - ・ 庄原市スポーツ少年団の活動支援
 各主催行事に連携・各主催行事に連携・協力した。今年度も平成28年度から実施している会計ヒアリングを行った。 補助金：5,300千円（運営費）
 - ・ スポーツ指導者の育成支援
 各スポーツ団体などの有資格者と連携しながら、指導者を確保していくよう努めた。
- 総合型地域スポーツクラブの推進
 - ・ 総合型地域スポーツクラブ「庄原さくらスポーツクラブ」・「総領節分草スポーツクラブ」の支援
 庄原さくらスポーツクラブに100千円、総領節分草スポーツクラブに50千円を補助し、ニュースポーツの普及、会議・研修会への情報提供を行った。
 会員拡大に向け、回覧文書の作成も行った。
 - ・ 総合型地域スポーツクラブの体験会開催や設立に向けた支援
 スポーツ推進委員を活用して、総合型地域スポーツクラブの体験会を行う予定としていたが、実行に至らなかった。
- 競技力向上・ジュニアスポーツの推進
 - ・ レベルアップスポーツ教室の充実（水泳・競泳・陸上競技・バレーボール・スキー・バスケットボール・卓球）
 各レベルアップ教室を開催
 - ①陸上 5/12 16人
 - ②水泳指導者派遣 6/21～7/14 16校 437人
 - ③競泳 初級（6/20、6/27）中級（7/4、7/11）上級（7/18、7/25）計6回 60人
 - ④バスケットボール 20人
 - ⑤卓球 12/9 64人
 - ⑥スキー 1/27 54人
 - ⑦バレーボール 3/9 52人
 - ・ レベルアップ指導者講習会の実施（水泳・スキー）
 指導者講習会を行い、指導内容の充実を図った。
 陸上指導者講習会 5/22 16人
 水泳指導者講習会 6/13 16人
 - ・ アスリート育成事業（陸上競技）
 開校式4/12 平成30年度 小学校3年～6年：35回
 （平成29年度は、3年30回、4年以上35回/年）
 12～3月は体育館で練習 登録者数：3年15人、4年15人、5年16人、6年19人

計 65 人登録

アスリート教室体験会の開催 3/16 24人

- ・ 文化・スポーツ全国大会等出場者への支援

壮行式 夏季：7/23 秋季：9/28 激励式 11/22, 延べ41人 うち団体数2

- ・ 庄原市少年少女スポーツ振興会との連携による各種記録会等開催支援

子供たちの運動に親しむ資質や能力を育成するため、レベルアップスポーツ教室事業に参画・後援をいただき連携を図った。

庄原市レベルアップスポーツ教室への後援

庄原市少年少女陸上記録会・水泳記録会への協力

○ 障害者スポーツへの支援

- ・ 各種施設、設備等の環境整備

障害者スポーツやニュースポーツ等の用具の購入を計画的に行った。

- ・ 指導者、ボランティアスタッフの育成及び活動支援

各種スポーツイベントを開催

【再掲】障害者スポーツ体験会 7/5 (ふれあいセンター) 28人

【再掲】庄原市障害者スポーツ体験会 11/8 (上野総合公園陸上競技場) 32人

【再掲】障害者スポーツ指導者全国研修会 12/15.16 (広島市)

【再掲】障がい者スポーツ指導員(初級)養成講座 1/12.13.14 (東広島市)

【再掲】障がい者スポーツ指導員(中級)養成講座 8/24~26 2人、

11/23~25 2人、2/9~11 2人

【再掲】障害者スポーツ体験会 1/26 (ふれあいセンター) 18人

○ その他

- ・ 東京オリンピックに向けた「メキシコ選手団の広島事前合宿」受入にかかる関連交流事業の計画(令和元年度実施に向けて)

合宿受入は行っていないが、フラッグツアーを行うなどして、市民に向けて東京オリンピック・パラリンピックをPRした。

東京オリンピック・パラリンピックフラッグツアー 10/11.12 (市役所ロビー)

【成果・効果】

- ◎ 各大会やスポーツイベントについては、庄原市体育協会及び各競技団体を中心に、準備から運営までを主体的に実施している。
- ◎ 今年度は、災害により開催できない大会が多くあった。
- ◎ 四県四郡市総合体育大会は、今年度開催地であった本市が28年ぶりに総合優勝を飾った。
- ◎ スポーツ推進委員については、積極的な研修参加と、地域スポーツ活動への参画を進め、地域における継続的な活動への支援を推進している。
- ◎ 市民スポーツ教室では、健康づくり・体力づくりを目的とした教室に人気があり、市民の健康意識の高まりにより、継続的な活動へとつながっている。
- ◎ スポーツ推進委員と連携し、体験会等を開催することで気軽に組み入る軽・ニュースポーツの普及に努めた。
- ◎ 各主催行事に連携・協力して行った。
- ◎ 指導者のうち、約半数が有資格者である。
- ◎ 新規会員の獲得に向けた取り組みを行った。
- ◎ 総合型地域スポーツクラブによるニュースポーツ・軽スポーツの普及活動は、気軽にスポー

ツに参加できるとして好評であった。

- ◎ レベルアップスポーツ教室の種目の見直しを行った。競泳教室について、レベルを3段階に分けたことで参加人数が増加した。
- ◎ 指導者の養成、資質の向上に努めた。
- ◎ アスリート育成事業については、定期的な活動として定着してきている。
- ◎ 全国大会等出場者については、定期的に壮行式を行うとともに、必要に応じて教育長による激励式を実施。多方面からの情報も得られるようになってきた。
- ◎ 庄原市少年少女スポーツ振興会においては、レベルアップスポーツ教室の後援、少年少女陸上記録会・水泳記録会への協力をいただいた。
- ◎ 各関係団体と連携し、市内を拠点とした教室やイベントの開催など、身近な地域で気軽にスポーツを楽しむ環境を提供することで、障害者スポーツの普及に努めた。
- ◎ 障害者スポーツの活動支援に向けた研修と、実際の活動への協力・支援を進めた。
- ◎ 東京オリンピック・パラリンピックの開催まであと1年半となり、オリンピックを応援する機運が高まってきている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
地域のスポーツイベントへの支援	普通	普通	現状継続
スポーツ推進委員活動の推進	高い	非常に高い	現状継続
市民スポーツ教室の推進	高い	高い	現状継続
ニュースポーツ、軽スポーツの普及	高い	高い	現状継続
庄原市体育協会の活動支援	高い	高い	現状継続
庄原市スポーツ少年団の活動支援	高い	高い	現状継続
スポーツ指導者の育成支援	普通	高い	拡大継続
総合型地域スポーツクラブ「庄原さくらスポーツクラブ」・「節分草スポーツクラブ」の活動支援	高い	高い	現状継続
総合型地域スポーツクラブの体験会開催や設立に向けた支援	普通	高い	拡大継続
レベルアップスポーツ教室の充実（水泳・競泳・陸上競技・バレーボール・スキー・フットサル・卓球・バスケットボール）	高い	高い	現状継続
レベルアップ指導者講習会の実施（水泳・スキー）	高い	高い	現状継続
アスリート育成事業（陸上競技）	高い	高い	現状継続
文化・スポーツ全国大会等出場者への支援	高い	高い	現状継続
庄原市少年少女スポーツ振興会との連携による各種記録会等開催支援	高い	高い	現状継続
各種施設、設備等の環境整備	高い	高い	現状継続
指導者、ボランティアスタッフの育成及び活動支援	高い	高い	現状継続
東京オリンピックに向けた「メキシコ選手団の広島事前合宿」受入にかかる関連交流事業の計画（令和元年度実施に向けて）	普通	普通	現状継続

【課題・対応】

- 市が補助金を交付し、長年継続的に実施している大会については、その効果を検証する必要がある。
- スポーツフェスティバルなど複数種目を実施する大会については、種目内容や種目の増減等を検討していく必要がある。
- スポーツ推進委員の活動について、各委員より毎年度活動状況の報告を受け、委員の各地域における位置づけや活動の方向性を明確にする。
- 市民スポーツ教室については、市民のニーズに応じた教室を開催する必要がある。
- ニュースポーツ・軽スポーツのさらなる普及のために、体験会の開催やPRなどに努める必要が

ある。

- 大会やイベント日程の重複等が起こらないよう、各団体と横断的な連携を図る必要がある。
- 平成26年度庄原市定期監査における指摘に対して、本部・各支部へ補助金の配分基準・各団の報告の徹底等の指導を行っている。(3年目)
- 指導者不足及び指導者の高齢化が課題となっている。
- 既存のスポーツクラブのPRを行うなど、総合型地域スポーツクラブを周知していく必要がある。
- 新規設立のためにも、総合型地域スポーツクラブの体験会等を行う必要がある。
- レベルアップスポーツ教室の種目については、検証を行いながら見直しを行う必要がある。
- 指導者の育成は必要であるため、今後も継続して行っていく。
- アスリート教室の発展的な自主運営への移行の検討を行っていく。
- 多方面から全国大会等出場者の情報が得られるようになってきた。
- 引き続き、庄原市青少年スポーツ振興会との連携による各種記録会等の開催支援を行う必要がある。
- 障害者スポーツに必要な備品等についても、計画的に整備する必要がある。
- トイレの洋式化など、利用者にやさしい施設の整備についても検討していく必要がある。
- 継続的かつ計画的に障害者スポーツ指導員やボランティアなどの人材育成を図る必要がある。
- 東京オリンピック開催が近づく中、オリンピックに係る方々の講演会なども計画していく必要がある。

② スポーツ環境の充実

【取り組み・実績】

○ 社会体育施設の利用促進

- ・ 体育館、総合運動公園、屋内外体育施設等の管理・運営（指定管理・直営管理）及び利用促進

庄原市総合体育館をはじめ、施設について指定管理、あるいは直営（管理委託を含む）にて管理を行った。

■指定管理施設

庄原市総合体育館、庄原市テニスコート、庄原市スポーツ広場、庄原市運動公園、庄原市水泳プール・庄原市総合サービス(株) 52,743千円

口和スポーツセンター・口和スポーツセンター管理組合 273千円

比和総合運動公園・比和体育館(株)庄原ヒルズコーポレーション 3,320千円

※平成30.6.1～直営管理に変更

西城総合運動公園（道後山高原クロカンパーク）(株)道後山高原サービス 23,460千円

■直営管理

各種スポーツ施設（学校体育施設開放事業を含む）

- ・ 社会体育施設維持整備方針に基づく各施設の計画的な維持修繕、改修
市内には、多くの施設が存在し、いずれも老朽化が進行している。各施設の維持管理について、一定の方針を定め、継続的・計画的に修繕や更新を実施する。

【修繕・工事】

庄原市総合体育館アリーナ東側網戸修繕工事 156千円

庄原市水泳プール照明器具取替工事 852千円

- 比和総合運動公園体育館屋根修繕工事 2,474 千円
- 庄原市スポーツ広場グラウンド照明設備改修工事（3・4号柱） 4,202 千円
- 高野スポーツ広場維持修繕工事 314 千円
- 高野水泳プール改築工事 43,900 千円（令和元年繰越：65,936 千円）
- 西城温水プール「水夢」温水チラー3・4号機圧力機取替修繕 102 千円
- 西城温水プール「水夢」1・4号機修繕 431 千円
- 西城温水プール「水夢」トップライト廻り雨漏れ修繕 185 千円
- 西城温水プール「水夢」給湯二次ポンプ・ジャグジーろ過ポンプ取替修繕工事 562 千円
- 道後山高原総合体育館非常用発電機・保温用ヒーター修繕工事 148 千円
- 西城総合運動公園クロスカントリーコース芝補修工事 903 千円

【委託】

- 高野水泳プール改築工事監理業務 0円（令和元年繰越：1,806 千円）

【備品購入】

- 庄原市総合体育館全自動血圧計 214 千円
- 比和総合運動公園除草剤用動力噴霧機 227 千円
- 西城温水プール「水夢」ランニングマシン2台、レッグエクステンション/レッグカー
ル1台 2,700 千円
- ・ 西城温水プール「水夢」の利用促進
記録会や教室などを定期的で開催し、定着を図った。
 - 水夢フェスティバル水泳記録会等
 - 庄原市少年少女水泳記録会（7/27） 庄原市内19小学校 参加選手222人 延
べ459人
 - 水夢フェスティバル水泳大会（10/21） 443人
 - 各種教室の実施状況
 - ベビースイミング教室（6～9月 16回実施 延べ170組 340人参加）
 - 幼児スイミング教室（5～6月、9～10月 18回実施 延べ189人参加）
 - ボディシェイプ教室（5～12月 15回実施 延べ145人参加）
 - 親子体操教室（8～9月 6回実施 延べ21組 42人参加）
 - トレーニング室、スタジオ等の利用促進
 - トレーニング室 1,787人（前年度対比 133%）
 - スタジオ 2,266人（前年度対比 123%）
- 学校体育施設の活用
 - ・ 市内小中学校の体育施設開放事業
市内の小中学校の屋内体育施設、屋外体育施設を学校運営に支障のない範囲で市民に供す
る事業として、開放事業を実施
 - ・ 県立学校体育施設開放事業
市内の県立学校体育施設を学校運営に支障のない範囲で市民に供する事業として、各学校
と利用契約を締結し、開放事業を実施
 - 庄原実業高等学校 実績なし
 - 庄原特別支援学校 実績なし
 - 東城高等学校（平成30.4.1～） 2回
- 学校・家庭・地域のネットワークづくり
 - ・ 庄原市スポーツ少年団、自治振興区及び社会教育関係団体相互の連携による子供たちのス

スポーツ参加促進への取り組み

総領スポーツフェスティバル（ニュースポーツ講習会）を開催し、ペタンク、フライングディスク、グラウンド・ゴルフで交流を図った。

4歳から83歳までの40人が参加。 10/14 田総の里スポーツ公園

主催：総領節分草スポーツクラブ・庄原市スポーツ推進委員総領支部

- ・ 総合型地域スポーツクラブ等による地域全体を巻き込んだスポーツ活動への取り組み支援

【再掲】

総領スポーツフェスティバル（ニュースポーツ講習会）を開催し、ペタンク、フライングディスク、グラウンド・ゴルフで交流を図った。

4歳から83歳までの40人が参加。 10/14 田総の里スポーツ公園

主催：総領節分草スポーツクラブ・庄原市スポーツ推進委員総領支部

【成果・効果】

- ◎ 指定管理施設については、指定管理者により、適正な管理運営が行われている。特に庄原市総合体育館では、自主運営に取り組む等、利用者拡大に貢献している。
- ◎ 各施設とも老朽化が進む中、定期的な点検や確認、必要に応じて修繕を行う等適正管理に務めた。
- ◎ 庄原市西城温水プールは、平成29年度に床の張替えを実施し、平成30年度には、ランニングマシン2台、レッグエクステーション・レッグカールのトレーニングマシンを新たに導入し、より充実したスポーツ施設として利用促進を図る等、利用者の増大に取り組んだ。
- ◎ 学校体育施設開放事業については、地域に密着したスポーツ活動拠点施設として位置付けており、利用者も多い。
- ◎ 地元自治会からの要望により、東城高校のグラウンドを県立学校体育施設開放事業として新たに追加した。
- ◎ ひろしまクロスカントリー大会は、自治振興区も一緒になり、大会運営を行った。
- ◎ 各種スポーツイベントについて地域、世代間の交流を図ることができた。
- ◎ レベルアップ水泳教室について、初心者でも気軽に参加できるイベントになるよう計画した。
- ◎ 子供から高齢者まで、気軽に参加できるよう、ニュースポーツの種目を選択した。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
体育館、総合運動公園、屋内外体育施設等の管理・運営（指定管理直営管理）及び利用促進	高い	高い	現状継続
社会体育施設維持整備方針に基づく各施設の計画的な維持修繕、改修	高い	高い	現状継続
西城温水プール「水夢」の利用促進	高い	高い	現状継続
市内小中学校の体育施設開放事業	高い	高い	現状継続
県立学校体育施設開放事業	普通	低い	縮小継続
庄原市スポーツ少年団、自治振興区及び社会教育関係団体相互の連携による子供たちのスポーツ参加促進への取り組み	高い	高い	現状継続
総合型地域スポーツクラブ等による地域全体を巻き込んだスポーツ活動への取り組み支援	非常に高い	高い	拡大継続

【課題・対応】

- 管理運営方法については、引き続き各々の施設の特徴や現状、利用者増進の取り組み等を考慮し、「直営」「指定管理」を検討する。
- 老朽化が進行している施設については、計画的に修繕等を行っていくが、「庄原市社会体育施設維持整備方針」に基づき、管理運営等の方向性を含め、今後のあり方を検討する必要がある。
- 庄原市西城温水プールは、平成 10 年度より開場し 20 年が経過し、施設の老朽化も目立ってきた。特に、チラー（プール水温・室内の温度調整機器）に関しては、部品の一部が製造中止になっており、早急な取替え修繕が必要である。
- 西城温水プールは、利用者からの要望もあることから、休場期間の変更についての検討が必要である。
- グラウンドの照明施設の老朽化が目立つ。また、製造中止、輸入禁止になる照明もあるため、LED化も視野に入れ、計画的に更新していく必要がある。
- 県立学校体育施設開放事業においては円滑に利用していただけるよう、各校と協議を行っていく。

3 家庭・地域の教育力

(1) 教育風土の醸成

① 地域社会に貢献できる人材の育成

【取り組み・実績】

- 地域や産業界等と連携した教育内容の充実
 - ・ 保護者や地域等の声を生かした教育活動の推進
 - 各学校の教育内容に係る取り組みについて自己評価を行い、その後、学校関係者評価委員による評価を実施
 - 保護者や地域の意見を反映し、学校としての説明責任を果すため、各学校において、学校評議員による会議を実施

【成果・効果】

- ◎ 全校で学校関係者評価委員会や学校評議委員会を開催し、地域の意見や評価を生かした教育活動を推進している。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
保護者や地域等の声を生かした教育活動の推進	高い	高い	現状継続

【課題・対応】

- 保護者や地域、産業界の協力を得ながら、子供を見守る学校の体制づくりのために、より一層、学校から情報発信するとともに、日常の教育活動に対する理解を図る。

② 地域理解を深める教育活動の推進

【取り組み・実績】

- 学校や地域の教育活動等の公開の充実
 - ・ 「庄原市教育フォーラム」等の開催による積極的な情報発信
 - 保護者、学校関係者及び市民等を参加対象に、10年後の庄原市をテーマに「庄原市教育フォーラム(10/28)」を開催し、市内各学校の取り組みや教育の現状と課題、今後の見直し等紹介
 - 教育フォーラムの開催にあたり、市ホームページ、フェイスブック及び広報しょうばらに内容を掲載するとともに、住民告知放送による音声案内、市内10ヶ所に縦看板の設置、市内全域にチラシを配布し啓発を推進
 - 中学校合唱コンクールの開催にあたり、広報しょうばら及び住民告知放送にて案内、周知
 - ・ 市ホームページ等の活用による市民の教育活動への参加促進
 - 市ホームページの教育長メッセージを毎月1日に更新し、教育への関心を啓発
 - 市主催研修や行事を市ホームページに掲載し、教育活動への理解を促進
 - 市ホームページに「学校へ行こう週間」の概要、目的及び実施期間等の内容及び各学校の取り組みを掲載し啓発を推進
 - 各学校の公開研究会の日程及び内容等について市ホームページに掲載

【成果・効果】

- ◎ 庄原市教育フォーラム参加者 約 650 名
- ◎ 小学生による学習発表、中学生による提案発表、藤原和博氏による講演により、市民で庄原の未来について考える機会とした。
- ◎ 参加者からは、小中学生の取り組みや姿を評価する声、講演からこれからの社会を生き抜くために必要な力がよく分かった等の声を多数いただいた。
- ◎ 中学校合唱コンクール参加者 中学生約 400 名 来場者約 300 名 合計 700 名
- ◎ 生徒の合唱の姿に肯定的な評価を多数いただいた。
- ◎ 市主催研修や行事などの市ホームページへの掲載はほぼできている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
「庄原市教育フォーラム」等の開催による積極的な情報発信	非常に高い	非常に高い	現状継続
市ホームページ等の活用による市民の教育活動への参加促進	高い	非常に高い	現状継続

【課題・対応】

- 教育フォーラムの内容や市民等への啓発の方法・時期について、早めに検討する。
- 今年度は、庄原市のマラニックや県の教育フォーラムと期日が重なってしまった。期日の周知を早めに行うようにする。
- 市ホームページに教育長のメッセージや主催研修などの様子を掲載していることを周知し、閲覧者を増やす。

③ 「しょうばら教育の日」の創設

【取り組み・実績】

- 市民全体で子供を育てる風土の醸成
 - ・ 学校・家庭・地域が一緒になった教育活動の推進
庄原市教育フォーラムによる市民への教育活動の理解・啓発
 - ・ 関係者との協議
「しょうばら教育の日」の制定に向けた内容の検討、手続き・手順などについて、庁内関係部署との協議・調整が進んでいない。

【成果・効果】

- ◎ 庄原市教育フォーラムは、市民で教育を考える機会となった。
- ◎ 法制化するための具体的な内容（趣旨・取り組み内容・対象・範囲）などをまとめる必要がある。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
学校・家庭・地域が一緒になった教育活動の推進	非常に高い	高い	現状継続
関係者との協議	高い	非常に高い	改善継続

【課題・対応】

- P T A 連合会との共催で行うことで参加者について配慮いただいている。引き続き連携を進めていく。
- 教育委員会各課と市長部局などが連携し、「しょうばら教育の日」創設に向けた、具体的な内容などの協議・調整が必要である。

(2)家庭・地域と一緒に取り組む教育活動

① 家庭の教育力の向上

【取り組み・実績】

- 子育てに関する学習機会や情報の提供
 - ・ 「親の力をまなびあう学習プログラム」を活用した参加型講座の開催
講座の実施（7回）
 - 10/10 峰田小（保護者・教職員対象） 参加者 41名
 - 10/25、12/20 西城紫水高校 参加者各 40名
 - 10/27 広島県立高校PTA連合会 参加者 40名
 - 1/8 備北丘陵公園ふらり 参加者親子 20組
 - 1/20 山内小学校 参加者 55人
 - 1/30 東城町保小中高連絡会（保護者・教職員対象） 参加者 40人
研修等（県主催研修3回、市主催連絡会議等1回実施）
 - ・ 家庭教育に関する講座や講演会の実施
 - 住民自らが地域課題の解決に向けた活動に結びつけていく力を醸成するため、家庭・地域の教育力を高める事業を、自治振興区を中心に展開。
年間開催 20事業 参加者 537人

【成果・効果】

- ◎ 家庭教育支援の一環として、学校等からの申し込みに基づき開催した。講座の依頼が多く、ファシリテーターへの積極的な参加を促した。
- ◎ ファシリテーターをグループ化し、主催の講座を実施した。
- ◎ 自治振興区を中心に、子供の自主性を育てる事業などに取り組んだ。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
「親の力をまなびあう学習プログラム」を活用した参加型講座の開催	普通	高い	現状継続
家庭教育に関する講座や講演会の実施	高い	非常に高い	拡大継続

【課題・対応】

- 実際に、講座の出来るファシリテーターが少ない。
- 開催団体が固定化してきている。
- 子供と保護者が一緒に参加し、家庭教育に結びつける事業の実施を働きかける必要がある。

② 地域の教育力の向上

【取り組み・実績】

- 地域全体で次代を担う健全な子供を育てる取り組みの推進
 - ・ 地域の教育力等の地域課題に対応した学習活動の推進
 - 住民自らが地域課題の解決に向けた活動に結びつけていく力を醸成するため、子供から高齢者まで幅広い世代の住民を巻き込んだ事業を、自治振興区を中心に展開。
年間開催 23事業 参加者 1,079人
 - ・ 学校・家庭・地域等の連携による世代間交流事業や放課後子供教室の実施

地域の実情に合わせ、次の方法により9教室を開設し運営。

利用人数が放課後児童クラブの開設要件に該当しない学校区において、自治振興区に委託し、「放課後子供教室」を開設。（峰田・川北・高・山内・八幡・栗田・総領）

体験活動としての教室を開設（庄原）

下校時間が早い木曜日に、安全な居場所を確保するため、「放課後子供教室」を開設。

（比和）

- ・ 保護者や地域住民が学校支援・運営に参画できる仕組みの検討
引き続き、国や県、他市町の動向などの情報収集に努め、コミュニティ・スクール制度の研究を行う。
- ・ 地域住民による学習支援「地域未来塾」の開設
地域の要望に基づき、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身につけていない小中学生を対象に、地域住民による学習支援を実施する。自治振興区へ運営を委託することにより5教室（栗田・八幡・上高・比和・総領）12クラス開設
- ・ 「読書」をキーワードとした家庭教育支援事業の推進
読書ボランティア、自治振興区、市内書店や学校図書等による家庭教育支援チームの構築と活動支援
読書ボランティア、自治振興区、市内書店や学校図書等による家庭教育支援チームの構築と活動支援に向けた検討
8月 家庭教育支援チーム設置に向けた意見交換会を開催。
対象：読書ボランティア、自治振興区、市内書店、学校図書等
11月 庄原市家庭教育支援チームの設置を宣言し、チーム事業の実施に向けた意見交換を行った。
2月 家庭教育支援チーム会議を開催し、次年度事業に向けての意見交換を行った。

【成果・効果】

- ◎ 各自治振興区等で地域課題解決のための講座等を活発に実施している。
- ◎ 市内全ての学校区に放課後児童クラブまたは放課後子供教室を開設し、放課後の児童の安全な活動拠点を確保している。
- ◎ コミュニティ・スクール制度が目指す学校と地域の連携は、学校関係者評価委員会や学校評議員制度でも図られている。
- ◎ 子供たちの学習習慣の確立と基礎学力の定着に向け、地域住民による支援が得られた。
- ◎ これらの事業に取り組むことで、地域の教育力の向上と活性化につながっている。
- ◎ 読書ボランティア、自治振興区、市内書店や学校図書等によるネットワークを構築し、家庭教育支援チームを設置することができた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
地域の教育力等の地域課題に対応した学習活動の推進	高い	非常に高い	拡大継続
学校・家庭・地域等の連携による世代間交流事業や放課後子供教室の実施	高い	非常に高い	拡大継続
保護者や地域住民が学校支援・運営に参画できる仕組みの検討	高い	高い	現状継続
地域住民による学習支援「地域未来塾」の開設	高い	高い	拡大継続
「読書」をキーワードとした家庭教育支援事業の推進 読書ボランティア、自治振興区、市内書店や学校図書等による家庭教育支援チームの構築と活動支援	高い	高い	現状継続

【課題・対応】

- 効果の高い事業をより充実させる必要がある。
- 放課後児童クラブの利用児童も参加できる体験活動等の拡充にむけ、自治振興区と協議する。
- 放課後子供教室については、学校の適正配置後の運営体制についての情報収集と開設に向けた整備を行う必要がある。
- コミュニティ・スクール制度については、引き続き、他市の動向も踏まえ研究する必要がある。
- 地域未来塾については、地域の設置希望の確認が必要。
- 家庭教育支援チームの今後の事業内容、実施手法、頻度、チームのあり方等については、チームメンバーと共に検討が必要。

Ⅲ 教育委員会委員の活動状況

1 庄原市教育委員会（平成30年5月1日現在）

役職名	氏名	任期
教育長	牧原 明人	平成30年4月1日～令和3年3月31日
委員 教育長職務代理者	末信 丈夫	平成26年7月1日～平成30年6月30日※
委員	横山 和明	平成28年4月29日～令和2年4月28日
委員	神本 久美	平成29年4月1日～令和元年4月28日
委員	立花 有佐	平成29年4月29日～令和3年4月28日

※平成30年7月1日付けで、平成30年7月1日～令和4年6月30日～任期更新

2 教育委員会議の開催状況

年月日	会議名	概要
4月20日	平成30年第5回教育委員会議	議案2件、報告3件、協議0件
5月25日	平成30年第6回教育委員会議	議案10件、報告0件、協議0件
6月15日	平成30年第7回教育委員会議	議案1件、報告1件、協議2件
7月20日	平成30年第8回教育委員会議	議案6件、報告2件、協議2件
8月17日	平成30年第9回教育委員会議	議案4件、報告0件、協議2件
9月14日	平成30年第10回教育委員会議	議案0件、報告0件、協議2件
10月18日	平成30年第11回教育委員会議	議案2件、報告3件、協議0件
11月16日	平成30年第12回教育委員会議	議案2件、報告0件、協議0件
12月21日	平成30年第13回教育委員会議	議案2件、報告0件、協議1件
1月21日	平成31年第1回教育委員会議	議案3件、報告2件、協議1件
2月15日	平成31年第2回教育委員会議	議案2件、報告1件、協議1件
3月8日	平成31年第3回教育委員会議	議案8件、報告0件、協議0件
3月26日	平成31年第4回教育委員会議	議案6件、報告1件、協議0件

3 教育委員会議の議決案件及び主な報告・協議事項

平成30年（4月～12月）

開催番号	議案等	議 題 名	備考
第5回	第24号	庄原市就学指導委員会委員の委嘱について	承認
	第25号	庄原市学校歯科医の委嘱について	承認
	報告	平成30年度教育委員会嘱託員・臨時職員について	—
	報告	平成30年度各課・室事務分掌について	—
	報告	平成30年度における重要課題及び留意事項について	—
第6回	第26号	平成30年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択基本方針について	承認
	第27号	庄原市教育事務評価検討委員の委嘱について	承認
	第28号	庄原市小中学校評議員の委嘱について	承認
	第29号	庄原市学校関係者評価委員の委嘱について	承認
	第30号	庄原市教科用図書採択地区選定委員会委員の委嘱について	承認
	第31号	庄原市学校保健会委員の委嘱について	承認
	第32号	庄原市社会教育委員の委嘱について	承認
	第33号	庄原市芸術文化振興審議会委員の委嘱について	承認
	第34号	庄原市図書館協議会委員の委嘱について	承認
第7回	第35号	庄原市人権教育推進委員の委嘱について	承認
	第36号	庄原市学校関係者評価委員の委嘱について	承認
	協議	平成29年度教育行政施策の方針に基づく実績点検・評価について	—
	協議	庄原市通学路交通安全プログラムの見直しについて	—
第8回	報告	中国四川省綿陽市からの訪問について	—
	第37号	庄原市学校適正配置検討委員会設置要綱の廃止について	可決
	第38号	庄原市埋蔵文化センター管理規程の制定について	可決
	第39号	庄原市就学指導委員会委員の委嘱について	承認
	第40号	庄原市学校保健会委員の委嘱について	承認
	第41号	庄原市博物館・資料館運営協議会委員の委嘱について	承認
	第42号	庄原市美術展覧会運営協議会委員の委嘱について	承認
	協議	平成29年度教育行政施策の方針に基づく実績点検・評価について	—
	報告	市議会6月定例会一般質問の概要（教育委員会関係分）について	—
報告	中国四川省綿陽市からの訪問について	—	
協議	平成30年度教育委員会委員行政視察について	—	
第9回	第43号	平成29年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書について	承認
	第44号	平成31年度使用小学校教科用図書の採択について	決定
	第45号	平成31年度使用中学校教科用図書の採択について	決定
	第46号	平成31年度使用特別支援学級用図書の採択について	決定
	協議	平成30年度県立学校訪問について	—
第10回	協議	平成30年度教育委員会委員行政視察について	—
	協議	平成30年度県立学校訪問について	—
第11回	第47号	庄原市教育交流教室指導員設置規則の一部改正について	可決
	第48号	庄原市教育交流教室指導員の委嘱について	承認
	報告	市議会9月定例会一般質問の概要（教育委員会関係分）について	—
	報告	広島県公立学校教職員人事異動方針について	—
第12回	報告	平成30年度教育委員会委員行政視察について	—
	第49号	教育委員会所管施設にかかる指定管理者の指定について	決定
第13回	第50号	平成31年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について	承認
	第51号	庄原市学校医の委嘱について	承認
	第52号	平成31年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について	承認
	協議	庄原市奨学金制度の見直しについて	—

平成31年（1月～3月）

開催番号	議案等	議 題 名	備考
第1回	第1号	庄原市高等学校存続対策奨学金貸付条例の廃止について	決定
	第2号	庄原市奨学金支給条例の廃止について	決定
	第3号	平成31年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について	承認
	報告	市議会12月定例会一般質問の概要（教育委員会関係分）について	—
	協議	平成30年度教育行政施策の方針に基づく中間点検・評価について	—
	報告	平成31年度教育委員会嘱託員・臨時職員の雇用について	—
第2回	第5号	平成31年度庄原市一般会計当初予算（教育委員会関係分）について	承認
	第6号	庄原市口和郷土資料館長の委嘱について	承認
	協議	平成31年度教育行政施策の方針案について	—
	報告	庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備に関する方針案について	—
第3回	第7号	庄原市教育委員会嘱託員設置規則の一部改正について	可決
	第8号	庄原市中学校クラブ通学補助金交付要綱の一部改正について	可決
	第9号	平成31年度教育行政施策の方針の策定について	承認
	第10号	平成30年度庄原市一般会計補正予算第8号（教育委員会関係分）について	承認
	第11号	庄原市学校教育専門員の委嘱について	承認
	第12号	庄原市学校生活安全相談員の委嘱について	承認
	第13号	庄原市教育交流教室指導員の委嘱について	承認
	第14号	教職員の人事について	承認
第4回	第15号	庄原市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の施行に関する教育委員会規則の一部改正について	可決
	第16号	庄原市奨学金支給条例施行規則の廃止について	可決
	第17号	庄原市高等学校存続対策奨学金貸付条例施行規則の廃止について	可決
	第18号	庄原市教育委員会嘱託員（地域人材外国語指導助手）の委嘱について	承認
	第19号	庄原市人権教育推進委員の委嘱について	承認
	第20号	庄原市スポーツ推進委員の委嘱について	承認
	報告	市議会3月定例会一般質問の概要（教育委員会関係分）について	—

4 教育委員会会議以外の活動状況

【教育総務課】

開催日	行事名等	活動内容
5月29日	広島県市町教育委員会連合会定期総会 (於:広島市)	県教育委員会担当者等との意見交換等
7月30日	平成29年度教育事務点検評価に関する意見交換会	教育事務評価検討委員との意見交換
10月24日～12月19日	市内県立学校視察(庄原格致高校、庄原実業高校、西城紫水高校、東城高校、庄原特別支援学校)	授業参観、学校施設見学、意見交換等
10月23日	広島県市町教育委員会連合会教育委員研修会 (於:広島市)	講演、実践発表等
11月2日	広島県女性教育委員グループ第2回研修会 (於:江田島市)	視察、情報交換等
11月8・9日	教育委員先進地視察 (於:東京都日野市・目黒区)	教育行政に関する視察研修
1月21日	庄原市総合教育会議	市長との意見交換
3月6日	広島県女性教育委員グループ 第3回研修会(於:広島市)	実践発表、情報交換等

【教育指導課】

開催日	行事名等	活動内容
4月6日	市内中学校入学式	教育委員会告辞
4月19日～5月11日	庄原市教育委員会事務局全小中学校訪問	授業参観、学校施設見学、意見交換等
5月20日～6月4日	市内小学校・中学校春季運動会	参観
9月2日～16日	市内小学校・中学校秋季運動会	参観
6月12日～12月6日	市内小学校・中学校研究会	学校研究会視察
10月28日	庄原市教育フォーラム 「10年後のふるさと庄原を考える」発表、講演等	講演等参加
11月13日	庄原市中学校合唱コンクール	参観
3月10・11日	市内中学校卒業式	教育委員会告辞
3月22日	市内小学校卒業式	教育委員会告辞

【生涯学習課】

開催日	行事名等	活動内容
4月20日	国登録文化財「滝口家」視察	現地視察
7月23日	全国大会等出場者壮行式(夏季)	式典出席
8月7日	庄原市埋蔵文化財センターオープン式典	式典出席
8月15日	庄原市成人式	式典、講演参加
8月18日	第19回ひろしまクロスカントリー大会	大会参与
8月19日	時悠館「驚き・発見・感動」を与える講演会 「大山信仰と日本遺産～伯耆国大山開山1300年を契機として～」	講演参加
9月28日	全国大会等出場者壮行式(秋季)	式典出席
10月20日	第13回市民グラウンド・ゴルフ大会	来賓出席
11月3日	明治150年記念講演会(文化講演会) 「庄原英学校にみる明治時代の庄原の姿」	講演参加
12月2日	第67回庄原市スター式駅伝大会	来賓出席
12月2日	時悠館「驚き・発見・感動」を与える講演会 「考古学から見た庄原市ー最近の発掘調査からー」	講演参加
12月4日	人権作品表彰式及び講演会	来賓出席
1月28日	全国大会等出場者壮行式(冬季)	式典出席
3月23日	文化講演会「庄原の歴史文化を未来に繋ぐ」	講演参加

IV 教育事務評価検討委員の意見

1 庄原市教育事務評価検討委員

氏名	所属	委嘱区分
塩本 千恵子	庄原市民生委員児童委員協議会	学校教育関係者
実安 裕美	青少年健全育成庄原市民会議	学校教育関係者
松尾 直美	庄原市PTA連合会	学校教育関係者
堀江 直子	庄原市社会教育委員	生涯学習関係者
藤原 二三幸	庄原市芸術文化振興審議会	生涯学習関係者
松木 茂穂	庄原市スポーツ推進審議会	生涯学習関係者
河村 和也	公立大学法人 県立広島大学	学識経験を有する者

2 点検及び評価の結果に関する意見

(1) 学校教育

- 7ページ ○ ビブリオバトル・ブックトーク等を通じた読書活動の普及・啓発
読書に関する取組も、年々充実してきており、各学校での優れた実践につながると思うので、引き続き取り組んでいただきたい。また、図書標準を満たしていない学校の割合が高く、課題と捉えている。早急な解決を図りたい。
学校司書についても増員し、読書の取り組みを一層進めてほしい。
- 14ページ ○ 安全教育の充実
「県からの通知だけでは中山間地域の実情に合わない内容もある。」と課題を認識されているが、その通りである。この実態が報告書に記載されていることを評価したい。市教育委員会の中で、このような視点が維持されていることは教育行政にとって好ましいことである。
- 19ページ ○ 市内県立学校の教育活動の支援
小規模県立高等学校に対する補助を以前から取り組まれており、ありがたい支援である。高校存続という課題もあり、有効活用してほしい。また、地域の特性と、生徒の発想が生かされて、将来に繋がっていくような事業に生かされることを希望する。
- 21ページ ○ 教職員の服務管理の徹底
子供を取り巻く家庭状況や、学校でのいじめなどの対応で、教職員は大変な日々を過ごされていると思う。働き方改革にも関連して、状況が改善していくよう検討をお願いしたい。

働き方改革を進めるうえで、学校から地域社会や保護者に対する説明を丁寧に行う必要がある。働き方改革をめぐって学校と、地域社会や保護者との信頼関係が薄れてきている雰囲気もあり、改革を円滑に進めるためにも注意が必要である。

○ 23 ページ ○ 奨学金貸付等事業の充実

家からの十分な仕送り等が難しくなっている中で、奨学金は本当に望まれている制度である。市の財政も非常に厳しい中ではあるが、国や県の動向を考慮しながら、制度の充実を図られたい。子供たちの修学支援を継続的に実施してほしい。

○ 27 ページ ○ 生活交通対策と連携した輸送手段の検討

地域では生活交通バス、小学校への送迎バス、保育園の送迎タクシーなどがそれぞれ運行されている。限られた予算の中で効率的に実施できるよう、生活交通、保育所、小学校の送迎バスを統合するなど、地域の利便性も向上できるように、よりよい交通システムの実現に向け、検討されることを希望する。

(2) 生涯学習

○ 36 ページ ○ 子供の読書活動の推進とネットワークの構築

学校司書の活動により、ずいぶん読書活動が推進されてきているが、学校と市立図書館との連携や人材育成なども計画的に行い、今後益々、読書環境が充実していくことを願っている。

○ 37 ページ ○ 芸術・文化意識の高揚

昨年度は市美展において高等学校書の部で、相当数の出展があり、かなりレベルが高い作品があったということを知っている。高校への案内など、広く参加を促す取組やPRも効果的であった。

○ 42 ページ ○ 博物館・資料館機能の充実

比和自然科学博物館は、県内唯一の自然科学博物館として、安定的な入館者を得ているということで、好ましい状況である。夏休みの企画展の工夫や興味を引く多種多様な展示物などが入館者が多い要因であると思うが、学芸員の気遣いや説明、コミュニケーション力があることも良い。他の施設でも参考になる事例であることから情報共有し、施設の利用促進に努めてほしい。

○ 43 ページ ○ 連携・啓発事業の展開

地域の中には、非常に見識があり、研究が深い、話も上手い、すごいと思う方々がおられる。生涯学習の観点から活躍してもらいたいということもあるし、その知識を子供たちに教えてもらい、いろいろな文化的な事業をするのもよいと思うので、多様な人材活用を図られたい。

学校と連携した体験学習や出前授業の充実ということで、現地に行かなくても出前授業を受けることができ、利用しやすくなっている。夏季休業中など、子供教室との連携も図ることで、子供にいろんな体験をさせることができるので、ぜひ事業を増やしてもらいたい。

(3) その他

こうした評価活動をするには根拠やデータなどの分析をする中で、大変な苦勞をされてまとめておられ、また、その評価に基づき次の内容を創造していく営みがある。

学校の教員もそうだが、事務局の職員も増員するなど働き方改革を推進する必要があるのではないか。